電話／テレビ電話

■電話／テレビ電話のかけかた

音声電話／テレビ電話をかける 52
通話中に音声電話／テレビ電話を切り替える 56
通話中にハンズフリーに切り替える ..... ハンズフリー 57
リダイヤル／発信履歴／着信履歴を利用する ..... リダイヤル／発信履歴／着信履歴 57
着もじを使う ..... 着もじ 59
1回の通話ごとに発信者番号を通知／非通知にする 61
プッシュ信号を手早く送り出す ..... ポーズダイヤル 62
プレフィックス機能を利用する 63
国際電話を利用する ..... WORLD CALL 64
サブアドレスを指定して電話をかける ..... サブアドレス設定 66
再接続するときのアラームを設定する ..... 再接続機能 66
周囲の騒音を抑えて通話を明瞭にする ..... ノイズキャンセラ 67
車の中で手を使わずに話す ..... 車載ハンズフリー 67

■電話／テレビ電話の受けかた

音声電話／テレビ電話を受ける 67
相手が音声電話／テレビ電話を切り替えたとき 69
ダイヤルボタンを押して電話に出られるようにする ..... 着信アンサー設定 70
FOMA端末を折り畳んで通話を終了／保留する ..... クローズ動作設定 70
相手の声の音量を調節する ..... 受話音量 71
着信音の音量を調節する ..... 着信音量 71

■電話／テレビ電話に出られないとき、出られなかったとき

着信中や通話中の電話を保留にする ..... 応答保留／通話中保留 71
公共モード(ドライブモード)を利用する ..... 公共モード(ドライブモード) 72
公共モード（電源OFF）を利用する ..... 公共モード(電源OFF) 74
不在着信のお知らせのしかたを設定する ..... 確認機能設定 75
電話に出られないときに用件を録音／録画する ..... 伝言メモ 75
着信中の電話に出られないときに用件を録音／録画する ..... クイック伝言メモ 77
伝言メモや音声メモを再生／消去する 77

■テレビ電話の設定

キャラ電を利用する 78
相手側に送信する映像について設定する 79
テレビ電話のハンズフリーについて設定する ..... ハンズフリー切替 80
テレビ電話中に表示される映像について設定する ..... テレビ電話画面設定 81
音声電話とテレビ電話の切り替えについて設定する ..... テレビ電話切替通知 81
ｉモード中にテレビ電話がかかってきたときの応答方法を設定する ..... パケット通信中着信設定 81
外部機器と接続してテレビ電話を使用する 82
外出先から室内の様子などを確認する ..... 遠隔監視設定 83

音声電話／テレビ電話をかける

❶ 相手の市外局番からダイヤル

「電話番号入力画面」が表示されます。
同一市内への通話でも、必ず市外局番からダイヤルしてください。

市外局番 － 市内局番 － 電話番号

26桁を超えて入力すると、下26桁が表示されます。80桁まで発信できます。

電話番号入力画面

機能メニュー ➡P.54

■ 携帯電話にかける場合
090－××××－××××
または
080－××××－××××

■ PHSにかける場合
070－××××－××××

＜電話番号の入力を間違えたとき＞

■ 番号を挿入する場合
[▶] で挿入したい位置の1つ左の番号にカーソルを移動し、番号を入力します。

■ 番号を削除する場合
[▶] で削除したい番号にカーソルを合わせ、[CLR] を押します。
[CLR] を1秒以上押すと、カーソルのあたっている番号とその左側にあるすべての番号が削除されます。

■ 入力し直す場合
カーソルを番号の先頭か最後に合わせて [CLR] を1秒以上押すと、待受画面に戻ります。

＜テレビ電話＞

■ キャラ電画像でかける場合
▶ [α] [機能] ▶「テレビ電話画像選択」▶「キャラ電」▶キャラ電を選択

❷ [✆]（音声電話）／[✉]［テレ電］（テレビ電話）

＜音声電話＞
「通話中画面」が表示されます。

通話中画面

■「ツーツー」という話中音が聞こえる場合
相手が話し中です。しばらくたってからおかけ直しください。

■ 電話がかからないことを通知するガイダンスが聞こえる場合
相手の携帯電話、PHSの電源が入っていない、または相手が電波の届かない場所にいます。しばらくたってからおかけ直しください。

■ 電話番号の通知をお願いするガイダンスが聞こえる場合
相手が番号通知お願いサービスを「開始」に設定しています。電話番号を通知しておかけ直しください。

＜テレビ電話＞
「テレビ電話中画面」が表示されます。
相手の音声がスピーカから流れて通話できます。

テレビ電話中画面

機能メニュー ➡P.54

■ テレビ電話がかからなかった場合→P.55

■ カメラ映像と代替画像を切り替える場合
▶ [α] [機能] ▶「代替画像切替」または「自画像切替」

■ 外側カメラの映像を送信する場合
▶ [●] [切替]
[●] [切替] を押すたびに外側カメラ／内側カメラが切り替わります。

■ 親画面表示を切り替える場合
▶ [●]（1秒以上）
[●]（1秒以上）を押すたびに画面が以下の順に切り替わります。
親画面に相手側映像を表示 → 親画面に自分側映像を表示 → 相手側映像のみを表示 → 自分側映像のみを表示

■ 送信する音声をミュート（消音）する場合（マイクミュート）

▶[ ](1秒以上)

ミュート中「MUTE」が表示されます。映像はそのまま送信されます。

再度[ ]を1秒以上押すと、ミュートが解除されます。

■ 通話中に音声電話／テレビ電話の通話を切り替える場合

「通話中に音声電話／テレビ電話を切り替える」→P.56

■ 通話中の音声電話／テレビ電話を保留にする場合

「着信中や通話中の電話を保留にする」→P.71

3 通話が終了したら

おしらせ

- 音声電話／テレビ電話をかける際に、「着もじ」を付けることができます。→P.59
- ハンズフリーを利用して通話することができます。→P.57
- 平型スイッチ付イヤホンマイク（別売）を使って電話をかけることができます。→P.338
- ドコモの国際電話サービス「WORLD CALL」を利用して国際電話を利用することができます。→P.64

＜音声電話＞

- 発信中は「 」が点滅し、通話中は点灯します。

＜テレビ電話＞

- テレビ電話発信中は「 」が点滅し、通話中は点灯します。「32K」の通信速度で発信した場合は「 」が点滅し、通話中は点灯します。
- カメラ映像から代替画像（キャラ電）に切り替える場合、キャラ電によっては切り替えに数秒程度の時間がかかることがあります。
- FOMA端末から緊急通報番号（110番、119番、118番）へテレビ電話をかけたときは、自動的に音声電話での発信になります。
- テレビ電話中にメールやメッセージR／Fは受信できません（SMSは受信できます）。iモードセンターに保管されますので、テレビ電話終了後に「iモード問い合わせ」を行って受信してください。
- テレビ電話中に「電池充電してください」という電池切れアラームが表示されたときは、相手側に「カメラオフ Camera Off」というメッセージが表示され、約20秒後に切断されます。切断される前に充電を開始した場合は、電池切れアラームが発生する前の画像でテレビ電話通話が継続されます。
- 充電中に外側カメラを使用してテレビ電話を利用している場合、FOMA端末の温度状態によっては、まれにカメラオフになることを通知するメッセージが表示され、自動的にカメラオフへ切り替わることがあります。

テレビ電話について

テレビ電話機能は、ドコモのテレビ電話に対応した端末どうしでご利用いただけます。

● ドコモのテレビ電話は「国際基準の3GPP※1で標準化された、3G-324M※2」に準拠しています。ドコモのテレビ電話と異なる方式を利用しているテレビ電話対応端末とは接続できません。

※1：3GPP（3rd Generation Partnership Project）
第3世代移動通信システム（IMT-2000）に関する共通技術仕様開発のために設置された地域標準化団体です。

※2：3G-324M
第3世代携帯テレビ電話の国際規格です。

● テレビ電話の通信速度について
・64K：通信速度64kbpsで通信をします。
・32K：通信速度32kbpsで通信をします。

■ テレビ電話画面の見かた

①親画面（お買い上げ時は相手側のカメラ映像を表示）
②子画面（お買い上げ時は自分側のカメラ映像を表示）
③通話時間
④各種機能の設定内容

64K／32K：64K／32Kテレビ電話通信中
A／A：音声送受信中／送受信失敗
V／V：映像送受信中／送受信失敗
／：カメラ映像／代替画像送信中
／：ハンズフリーON／OFF
MUTE：マイクミュート中（消音中）
：ビジュアルチェック中
／／：撮影モード（ポートレート／風景／接写）
123／／：キー操作モード（DTMFモード※1／全体アクションモード※2／パーツアクションモード※2）
：キャラ電送中

※1：「DTMF送信／DTMF送信解除」→P.55
※2：「キャラ電を利用する」→P.78

機能 電話番号入力画面

❶ 電話番号入力画面（P.52）▶α［機能］▶以下の項目から選択

発番号設定……「電話をかけるときに通知／非通知を選択する」→P.62

プレフィックス……「プレフィックス番号を付加して電話をかける」→P.64

着もじ……「着もじを付けて電話をかける」→P.60

国際電話発信……「国際電話発信機能を利用して国際電話をかける」→P.65

マルチナンバー……「マルチナンバー」→P.366

電話帳登録……「電話帳に登録する」→P.87

iモードメール作成……「iモードメールを作成して送信する」→P.199

通信速度設定……テレビ電話をかけるときの通信速度を「64K／32K」から選択します。

テレビ電話画像選択……テレビ電話中に送信する画像を「自画像／キャラ電」から選択します。
設定を解除する場合は、「設定解除」を選択します。

おしらせ

●「通信速度設定」が変更されるのは1回の通話（発信）のみです。リダイヤル、発信履歴にも通信速度は記憶されません。また、「通信速度設定」を設定した後に音声電話をかけると、設定は無効になります。

機能 テレビ電話中画面

❶ テレビ電話中画面（P.52）▶α［機能］▶以下の項目から選択

代替画像切替⇔自画像切替……自画像と代替画像を切り替えます。

外側カメラ⇔内側カメラ……内側カメラと外側カメラを切り替えます。
通話中のみ設定が保持されます。

親画面表示切替……親画面の表示を切り替えます。
切り替えるたびに「親画面に相手側のカメラ映像を表示」→「親画面に自分側のカメラ映像を表示」→「相手側のカメラ映像のみを表示」→「自分側のカメラ映像のみを表示」の順で画面が切り替わります。

ビジュアルチェック⇔**ビジュアルチェック終了**……「テレビ電話中に自分の顔を確認する」→P.80

テレビ電話設定……テレビ電話の画面について設定します。

送信画質設定……相手に送信する映像と相手から受信する映像について設定します。
通話中のみ設定が保持されます。

標準（お買い上げ時）……画質、動きともに標準の設定です。

画質優先……きめ細やかな映像で送信します。動きが少ない場合に有効です。

動き優先……動きが滑らかな映像で送信します。動きが多い場合に有効です。

明るさ調節……画像の明るさを「－2～0～＋2」の5段階で調節します。

ホワイトバランス設定……画像の色合いを設定します。
設定項目の詳細については「ホワイトバランス設定」をご覧ください。
設定内容はカメラの同機能にも反映されます。

色調切替……画像の効果を「通常／セピア／白黒」から選択します。
通話中のみ設定が保持されます。

撮影モード選択……撮影する場面に合ったモードを設定します。
設定項目の詳細については「撮影モード選択」をご覧ください。
内側カメラのときは設定できません。

キャラ電設定……キャラ電を利用している場合は以下の設定ができます。カメラ画像のときは設定できません。

キャラ電切替……表示するキャラクタの種類を選択します。

アクション一覧……操作できるアクションとそのアクションに割り当てられているボタンを確認できます。[メ]を押してもアクション一覧を表示できます。

アクション切替……アクションモードを切り替えます。

静止画切替……相手側の画面に自作の画像を表示します。→P.79

照明設定……バックライトの点灯を設定します。

常時点灯（お買い上げ時）……常時バックライトを点灯します。

15秒点灯……15秒間のみバックライトを点灯します。

内側カメラ反転表示……通話中に自分側のFOMA端末に表示される自画像を鏡像表示にするか（ON）、正像表示にするか（OFF）を設定します。

通話中時間表示（お買い上げ時：ON）……通話中に通話時間を表示するかどうか設定します。

自局番号……テレビ電話中にお客様の電話番号を表示します。

DTMF送信⇔**DTMF解除**……キャラ電中にプッシュ信号の送信モードを設定／解除します。
キャラ電以外のテレビ電話中は常にプッシュ信号モードになります。

音声電話切替……「通話中に音声電話／テレビ電話を切り替える」→P.56

● テレビ電話がかからなかった場合

テレビ電話がかからなかったときは、接続できなかった理由が表示されます。

- 状況によっては接続できなかった理由が表示されない場合があります。
- 接続する相手の電話機種別やネットワークサービスのご契約の有無により、実際の相手の状況と理由表示が異なる場合があります。

表示	理由
番号をご確認の上おかけ直しください	使われていない電話番号にかけた場合
お話中です	相手がお話し中の場合 ・相手の端末によっては、パケット通信中の場合にも表示されることがあります。
パケット通信中です	相手がパケット通信中の場合
電波の届かない所にいるか電源が切れています	相手が圏外にいる、または電源が入っていない場合
発信者番号通知をONにしてください	発信者番号非通知で接続した場合（ビジュアルネットへの発信時）

次ページにつづく

表示	理由
転送致しますのでお待ち下さい	転送中の場合（転送先が3G-324Mに準拠したテレビ電話対応端末であればテレビ電話にかかります）
音声電話でおかけ直しください	転送先がテレビ電話非対応の場合
電話番号を通知しておかけ直しください	相手が番号通知お願いサービスを設定している場合
お客様のご要望によりおつなぎできません	相手が迷惑電話ストップサービスを設定している場合
上限額を超過しているため接続出来ません	リミット機能付料金プラン（タイプリミット、ファミリーワイドリミット）の上限額を超えている場合
接続できませんでした	発信者番号非通知を「通知する」に設定の上、おかけ直しください。 ・上記以外の場合にも表示されることがあります。
iモードから接続してください	iモード公式サイトを閲覧しないでテレビ電話をかけてVライブを視聴しようとした場合

■音声自動再発信について

- テレビ電話に対応していない電話機にかけた場合、「音声自動再発信」を「ON」に設定していると、自動的に音声電話に切り替えて発信します。「音声自動再発信」の動作は以下のようになります。

通信速度	音声自動再発信「ON」	音声自動再発信「OFF」
通信速度「64K」で発信してつながらなかった場合	通信速度「32K」で再発信します。	通信速度「32K」で再発信します。
通信速度「32K」で発信してつながらなかった場合	音声電話で再発信します。	再発信しません。

ただし、ISDNの同期64KやPIAFSのアクセスポイント、3G-324Mに対応していないISDNのテレビ電話など（2007年6月現在）にかけたときや間違い電話をしたときなどは、このような動作にならないことがあります。通信料金が発生する場合もありますのでご注意ください。

- 「32K」の通信速度は、ネットワーク状況によって「64K」で通信できないPHSなどの機器とテレビ電話を利用するためのものです。「64K」でテレビ電話をかけても、相手が「32K」エリアなどの通信環境であった場合は、自動的に「32K」に切り替えて再発信します。「32K」でテレビ電話をかけた場合でも、「64K」でテレビ電話をかけたときと同じデジタル通信料になります。

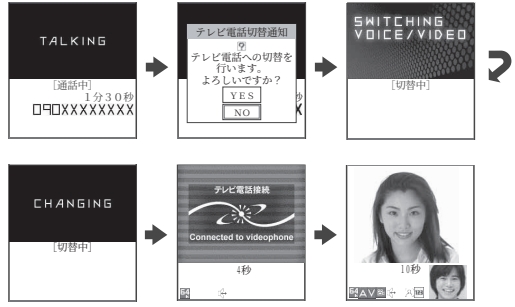
通話中に音声電話／テレビ電話を切り替える

- 相手側が切り替え可能なFOMA端末の場合、音声電話とテレビ電話の切り替えができます（音声⇔テレビ電話切り替え対応端末どうしでご利用いただけます）。
- 切り替え操作は、発信側からのみ行うことができます。
- 切り替え操作を行うには、あらかじめ着信側が「テレビ電話切替通知」を通知するように設定しておく必要があります。→P.81
- 音声電話／テレビ電話の切り替えは、繰り返し行うことができます。

＜例：音声電話からテレビ電話に切り替える場合＞

❶通話中画面▶●［テレ電］▶「YES」

切り替え中は、切り替え中であることを示す画面が表示され、音声ガイダンスが流れます。



この画面からデジタル通信料がかかります。

■テレビ電話から音声電話に切り替える場合

▶テレビ電話中画面（P.52）▶α［機能］▶「音声電話切替」

おしらせ

- 切り替えには、5秒程度の時間がかかります。なお、電波の状態などにより、切り替えるまでに時間がかかることがあります。
- 以下の場合は、通話中に音声電話とテレビ電話を切り替えることができません。
  - ・相手側が通話を保留にしているとき
  - ・相手側が伝言メモを起動したとき
- 表示されている通話時間は、通話を切り替えるたびに0秒にリセットされます。ただし、切り替え操作を行った後、テレビ電話で通話が終了した場合、通話終了後に表示される通話時間は音声電話とテレビ電話の合計となります。通話時間からは切り替えにかかった時間は除かれて表示されます。
- 相手側の利用状態や電波の状態などにより、切り替えることができず、通話が切断されることがあります。
- 切り替え操作を行った場合でも、リダイヤル／発信履歴には、最初に発信した電話の履歴が記憶されます。また、着信履歴には最初に着信した電話の履歴が記憶されます。
- 「SWITCHING　VOICE/VIDEO」が表示されている間は通話料はかかりません。
- 切り替えを行った際に、「通話時間／料金」に表示される通話料金は実際の通話料金と異なる場合があります。

＜音声電話⇒テレビ電話切り替え時＞

- 切り替え操作を行うと、テレビ電話中に送信する画像についてのメッセージが相手側のテレビ電話画面に表示されて、相手側でカメラ映像を送信するか代替画像を送信するかを選択できます。→P.69
- 発信側がiモード中の場合は、パケット通信を切断してテレビ電話に切り替えます。
- 相手側がパケット通信中（iモード含む）の場合は、「切替できません」というメッセージが表示され、音声電話からテレビ電話に切り替えることはできず、音声通話を継続します。
- 切り替え後のハンズフリーの設定は、「ハンズフリー切替」に従います。
- 「キャッチホン」が動作しているときは、切り替えることができません。

＜テレビ電話⇒音声電話切り替え時＞

- ハンズフリーの設定は解除されます。

通話中にハンズフリーに切り替える　〈ハンズフリー〉

通話中の相手の音声をスピーカから流して通話します。

❶ 通話中画面（P.52）

▶✉［ON］

ハンズフリー通話中は「」が表示され、相手の音声がスピーカから流れます。

呼出中に✉［ON／OFF］を押してハンズフリーを切り替えることもできます。

音声電話の場合

テレビ電話の場合

■ ハンズフリーを解除する場合

▶ハンズフリー通話中に✉［OFF］

ハンズフリーはOFFになり、音声電話の場合は「」が消えます。テレビ電話の場合は「」が「」に変わります。

● ハンズフリーを利用するときは

ハンズフリー通話では、FOMA端末から約30cm程度離して使用することを推奨します。これより離れたり近づき過ぎたりすると、相手側で聞き取り難い場合や、音声の聞こえ方が変わることがあります。

おしらせ

- ハンズフリーに設定すると相手の音声が周囲にもれますので、ほかの人の迷惑にならないような場所へ移動してからハンズフリーに切り替えてください。
- 通話が終了すると、ハンズフリーの設定は解除されます。

リダイヤル／発信履歴／着信履歴を利用する　〈リダイヤル／発信履歴／着信履歴〉

かけたり、かかってきた相手の電話番号や日付・時刻などの情報は、リダイヤル／発信履歴／着信履歴として記憶されます。これらを利用すると、かけたり、かかってきた相手に簡単に電話をかけられます。

- 同じ電話番号に繰り返し発信すると、リダイヤルには最新の1件が、発信履歴には別の1件として情報が記憶されます。
- リダイヤルは音声電話とテレビ電話の電話番号を30件まで記憶できます。
- 発信履歴／着信履歴は音声電話とテレビ電話の履歴を30件、パケット通信と64Kデータ通信の履歴を30件まで記憶できます。

次ページにつづく

● 履歴が最大件数を超えた場合は、古い履歴から順に上書きされます。

＜例：リダイヤル／着信履歴の一覧画面から電話をかける場合＞

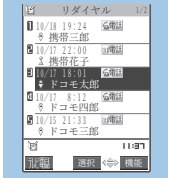
❶ 待受画面表示中▶▣（リダイヤル）／▣（着信履歴）

「リダイヤル画面（一覧）」／「着信履歴画面（一覧）」が表示されます。

■ 発信履歴を確認する場合

▶MENU▶「ユーザデータ」▶「発信履歴」

「発信履歴画面（一覧）」が表示されます。



例：リダイヤル画面（一覧）

機能メニュー ➡P.59

❷ リダイヤル／着信履歴を反転

■ リダイヤル／着信履歴の詳細を確認してから電話をかける場合

▶リダイヤル／着信履歴を選択

「リダイヤル画面（詳細）」／「着信履歴画面（詳細）」が表示されます。

例：リダイヤル画面（詳細）

機能メニュー ➡P.59

❸ ✆（音声電話）／✉［元電話］（テレビ電話）

● 不在着信の件数を確認する

■ 着信履歴から不在着信だけを確認する場合

▶MENU 2 4

全着信の件数、不在着信の件数、および不在着信のうち未確認の件数が表示されます。

「不在着信」を選択すると、不在着信のみ表示されます。

■ 表示されるリダイヤル／発信履歴／着信履歴のアイコンについて

アイコン	説明
電話／不在／不在	音声電話の発着信／不在着信／未確認不在着信
国際電話／国際不在／国際不在	国際音声電話の発着信／不在着信／未確認不在着信
テレビ電話／テレビ不在／テレビ不在	テレビ電話の発着信／不在着信／未確認不在着信
国際テレビ電話／国際テレビ不在／国際テレビ不在	国際テレビ電話の発着信／不在着信／未確認不在着信
伝言／伝言	音声伝言メモ／テレビ電話伝言メモに用件が録音／録画されているもの
	着もじの付いた着信
パケット／パケット不在／パケット不在	パケット通信の発着信／不在着信／未確認不在着信
64k／64k不在／64k不在	64Kデータ通信の発着信／不在着信／未確認不在着信
遠隔	遠隔監視の着信
接続中	外部機器が接続されていないときに受けたパケット通信や64Kデータ通信の着信

おしらせ

- 電源を切っても、リダイヤル／発信履歴／着信履歴は削除されません。発着信した電話番号をほかの人に見られたくないときは、リダイヤル／発信履歴／着信履歴を削除するか、「オリジナルロック」でロックしてください。

＜リダイヤル／発信履歴＞

- 「指定発信制限」を設定すると、それまでのリダイヤル／発信履歴はすべて削除されます。ただし、設定後にかけた電話はリダイヤル／発信履歴に記憶されます。
- マルチナンバーを機能メニューから選択して発信した場合、リダイヤル画面（詳細）／発信履歴画面（詳細）の電話番号の下に、付加番号の登録名と番号が表示されます。機能メニューを利用せずに発信した場合は、「通常発信番号設定」を付加番号に設定していても、何も表示されません。

＜着信履歴＞

- 「呼出時間表示設定」の「時間内不在着信表示」を「表示しない」に設定しているとき、「無音時間設定」で設定した時間より呼出時間が短い着信を受けた場合は、着信履歴に表示されません。
- 相手がダイヤルインを利用している場合、ダイヤルイン番号とは異なった番号が表示されることがあります。
- 電話番号を通知してこなかった場合、着信履歴に非通知理由が表示されます。
- 同じ電話番号を異なる名前で複数の電話帳に登録している場合、着信履歴には、電話帳のフリガナの検索順に従って電話帳の名前が表示されます。→P.91

● マルチナンバーの契約をしている場合、着信履歴画面から発信すると「通常発信番号設定」の設定にかかわらず、着信を受けた番号で発信します。
● マルチナンバーの付加番号に着信した場合、着信履歴画面（詳細）の電話番号の下に、付加番号の登録名が表示されます。

機能 リダイヤル画面／発信履歴画面／着信履歴画面（一覧・詳細）

❶ リダイヤル画面／発信履歴画面／着信履歴画面（P.58）▶α【機能】▶以下の項目から選択

発番号設定※1……「電話をかけるときに通知／非通知を選択する」→P.62

プレフィックス※1……「プレフィックス番号を付加して電話をかける」→P.64

着もじ※1……「着もじを付けて電話をかける」→P.60

国際電話発信※1……「国際電話発信機能を利用して国際電話をかける」→P.65

マルチナンバー※1……「マルチナンバー」→P.366

呼出時間表示※2……不在着信履歴が表示され、呼出時間が表示されます。着信履歴画面（一覧）表示中のみ有効です。

電話帳登録……「リダイヤルや発信履歴などから電話帳に登録する」→P.88

電話帳参照……「リダイヤルや発信履歴などから電話帳を呼び出す」→P.91

デスクトップ貼付……「デスクトップアイコンを利用する」→P.117

iモードメール作成……「iモードメールを作成して送信する」→P.199

SMS作成……「SMS（ショートメッセージ）を作成して送信する」→P.237

送信アドレス一覧※3……送信アドレス一覧を表示します。

受信アドレス一覧※2……受信アドレス一覧を表示します。

通信速度設定※1……テレビ電話をかけるときの通信速度を「64K／32K」から選択します。

テレビ電話画像選択……テレビ電話中に送信する画像を「自画像／キャラ電」から選択します。
設定を解除する場合は、「設定解除」を選択します。

拡大表示⇔標準表示※4……表示する文字サイズの「拡大／標準」を切り替えます。

削除……「1件削除／選択削除／全削除」から選択します。
「複数選択について」→P.39

※1：詳細画面でのみ利用できる機能です。
※2：着信履歴画面でのみ利用できる機能です。
※3：リダイヤル画面／発信履歴画面でのみ利用できる機能です。
※4：一覧画面でのみ利用できる機能です。

おしらせ

● 「iモードメール作成」は電話番号が電話帳に登録されていて、その電話帳にメールアドレスが登録されている場合、メールアドレスを宛先としたメールを作成します。電話帳に複数のメールアドレスが登録されている場合は、1番目のメールアドレスを宛先としたメールを作成します。
● リダイヤル画面／発信履歴画面から「全削除」を行うと、リダイヤルと発信履歴の両方がすべて削除されます。リダイヤルを「1件削除」、「選択削除」しても発信履歴からは削除されず、また発信履歴を「1件削除」、「選択削除」してもリダイヤルからは削除されずに履歴が残りますのでご注意ください。発信履歴を削除するときは発信履歴画面の機能メニューから、リダイヤルを削除するときはリダイヤル画面の機能メニューから、それぞれ削除してください。

着もじを使う 〈着もじ〉

音声電話やテレビ電話をかける際、呼び出し中に相手側へメッセージ（着もじ）を送り、あらかじめ用件などを伝えます。

● お買い上げ時には5件登録されており、お買い上げ時に登録されている着もじの内容は変更できます。
● 着もじには絵文字や顔文字を含めることができ、絵文字／記号／全角／半角問わず10文字まで送れます。
● 対応機種は、以下のとおりです。
902iSシリーズ、SH902iSL、N902iX HIGH-SPEED、N902iL、903iシリーズ、904iシリーズ、702iSシリーズ（N702iS、M702iS、M702iGを除く）、703iシリーズ、704iシリーズ、601iシリーズ（L601iを除く）、D800iDS

着もじを付けて電話をかける

「電話番号入力画面」や「電話帳」、「リダイヤル／発信履歴／着信履歴」の詳細画面から音声電話やテレビ電話をかける際に、着もじを付けることができます。

＜例：電話番号入力画面から着もじを付けて電話をかける場合＞

❶ 電話番号入力画面（P.52）▶α［機能］▶「着もじ」▶以下の項目から選択

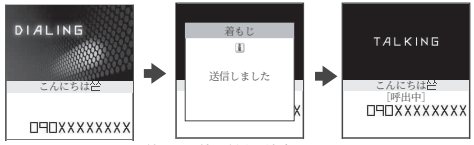
メッセージ作成……着もじを入力します。10文字まで入力できます。

メッセージ選択……登録済みの着もじから選択します。
メッセージ選択画面で［編集］を押して、着もじの内容を編集することもできます。

送信メッセージ履歴……過去に送信した着もじから選択します。送信メッセージ履歴画面で［編集］を押して、着もじを編集することもできます。

■ 入力した着もじを消去（着もじなしで発信）する場合
▶α［機能］▶「着もじ」▶「メッセージ作成」▶入力されている着もじをすべて消去

❷ （音声電話）／［テレ電］（テレビ電話）



着もじが相手側の端末に届いた場合、「送信しました」という送信結果が表示されます。

おしらせ
- 着もじの送信には送信料金がかかります。なお、受信側は料金はかかりません。
- 送信メッセージ履歴には送信した着もじを30件まで記憶できます。同じ着もじを繰り返し送信した場合、最新の1件だけが記憶されます。また、最大件数を超えた場合、古いものから順に上書きされます。
- 着信側が以下の場合などは、着もじを送信できません。このとき送信料金はかかりません。
  - 着もじ対応端末でない場合（「送信できませんでした」と表示されます）
  - 着信側の「メッセージ表示設定」により、発信側の着もじが着信側に表示されない場合（「送信できませんでした」と表示されます）
  - 公共モード（ドライブモード）設定中の場合
  - 伝言メモの呼出時間を0秒に設定している場合
  - 「圏外」または電源が入っていない場合
- 電波状態によっては、相手側の端末に着もじが届いていても発信側に送信結果が表示されない場合があります。この場合、送信料金はかかります。
- 「メッセージ選択」で登録済みの着もじの内容を編集して送信しても、登録内容は変更されません。
- 海外での利用時は、着もじを送受信することができません。

● 着もじが付いた音声電話やテレビ電話を受けると

着もじが着信中画面に表示されます。なお、通話を開始すると着もじは消えます。

例：音声電話

おしらせ
- 「呼出時間表示設定」の「無音時間設定」で設定した時間より呼出時間が短い着信であっても、着もじは表示され、着信履歴にも着もじは残ります。

● 着信履歴から着もじを表示する

着もじを受信すると、着信履歴に「✎」のアイコンが表示されます。

❶ 待受画面表示中▶▶「✎」が表示されている着信履歴を選択

「着信履歴画面（詳細）」が表示され、着もじの内容を確認できます。

おしらせ
- 着信履歴を利用して電話をかけた場合でも、履歴に残されている着もじは送信されません。

着もじの編集や設定をする

❶ MENU ▶「サービス」▶「着もじ」▶以下の項目から選択

メッセージ作成……「よく使う着もじを登録する」→P.61

メッセージ表示設定……着もじが付いた着信があったときの着もじの表示条件を設定します。

- **すべて表示**……すべての着もじを表示します。
- **電話帳登録番号のみ**……電話帳に登録されている相手からの着もじのみを表示します。
- **番号通知ありのみ**（お買い上げ時）……番号通知のある相手からの着もじのみを表示します。
- **表示しない**……すべての着もじを表示しません。

●よく使う着もじを登録する

● 着もじは、最大30件（お買い上げ時に登録されている5件を含む）まで登録できます。

❶ MENU ▶「サービス」▶「着もじ」▶「メッセージ作成」

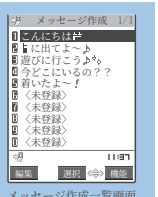
「メッセージ作成一覧画面」が表示されます。

❷「<未登録>」を反転▶✉［編集］

■ すでに登録されている着もじの内容を変更する場合

▶変更する項目を反転▶✉［編集］

❸ 着もじを入力



メッセージ作成一覧画面

機能メニュー➡P.61

機能 メッセージ作成一覧画面

❶ メッセージ作成一覧画面（P.61）▶α［機能］▶以下の項目から選択

編集……着もじを編集します。

削除……「1件削除／選択削除／全削除」から選択します。

「複数選択について」→P.39

おしらせ

● お買い上げ時に登録されている着もじは削除できません。お買い上げ時に登録されている着もじを変更し、その着もじを削除しても、お買い上げ時の内容に戻ります。

1回の通話ごとに発信者番号を通知／非通知にする

相手の電話機が発信者番号表示に対応している場合、音声電話やテレビ電話をかけたときにお客様の電話番号（発信者番号）を相手の電話機（ディスプレイ）へ表示させることができます。発信者番号はお客様の大切な情報ですので、通知する際には十分ご注意ください。

機能名	機能内容	参照ページ
発信者番号通知	電話をかけたときに、お客様の電話番号を通知するかどうかを一括して設定します。	P.48
「186」／「184」ダイヤル	電話をかけるたびに、お客様の電話番号を通知するかどうかを「186」／「184」をダイヤルして設定します。	P.61
発番号設定	電話をかけるたびに、お客様の電話番号を通知するかどうかを機能メニューから設定します。	P.62

相手の電話番号の前に「186」／「184」を付けてダイヤルする

電話をかけるたびに、電話番号を通知する場合は相手の電話番号の前に「186」を、通知しない場合は相手の電話番号の前に「184」をダイヤルします。

■ 電話番号を通知する場合

186－［相手先の電話番号］－✆（音声電話）／✉［ﾃﾚﾋﾞ電話］（テレビ電話）

■ 電話番号を通知しない場合

184－［相手先の電話番号］－✆（音声電話）／✉［ﾃﾚﾋﾞ電話］（テレビ電話）

次ページにつづく

おしらせ

- 国際電話では、「186」／「184」を付けてダイヤルしても無効になりますので、機能メニューから「発番号設定」を選択してください。
- 電話番号の通知をお願いするガイダンスが流れた場合は、「186」を付けてダイヤルし直すと通話できます。
- 「186」または「184」を付けて電話をかけたときは、リダイヤルや発信履歴に「186」または「184」を付けた電話番号で記憶されます。

電話をかけるときに通知／非通知を選択する 〈発番号設定〉

相手に電話番号を通知するかどうかを「通知しない／通知する」から選択します。

- 発番号設定機能が利用できるのは「電話番号入力画面」および「電話帳／着信履歴／発信履歴／リダイヤル」の各詳細画面です。

＜例：電話番号入力画面から音声電話をかける場合＞

❶ 相手の電話番号を入力

❷ [α]［機能］▶「発番号設定」▶「通知しない」または「通知する」

■「発番号設定」の「通知しない」／「通知する」を解除する場合

▶「発番号設定消去」

「発番号設定消去」を選択すると「発信者番号通知設定」で設定した内容になります。

❸ [通話]

プッシュ信号を手早く送り出す 〈ポーズダイヤル〉

FOMA端末からプッシュ信号を送って、チケットの予約や銀行の残高照会などのサービスを利用できます。

ダイヤルデータをポーズダイヤルに登録する

プッシュ信号として送るダイヤルデータをポーズダイヤルにあらかじめ登録します。p（ポーズ）を入力しておくと、ポーズが入力されている箇所でダイヤルデータを区切りながら送出できます。

- 登録できるダイヤルデータは1件、最大128文字まで入力できます。
- ダイヤルデータに登録できる文字は0～9、＃、＊、p（ポーズ）です。
- p（ポーズ）をダイヤルデータの先頭に入力したり、連続して入力することはできません。

❶ [MENU] [8] [4]

「ポーズダイヤル画面」が表示されます。

■ すでにダイヤルデータが登録されている場合

登録されているダイヤルデータが表示されます。

❷ [✉]［編集］▶ダイヤルデータを入力

[0]～[9]、[#]、[*]を押してダイヤルデータを入力してください。

■ p（ポーズ）を入力する場合

▶[*]（1秒以上）

ポーズダイヤル画面

機能メニュー ➡P.62

機能 ポーズダイヤル画面

❶ ポーズダイヤル画面（P.62）▶[α]［機能］▶以下の項目から選択

編集……ダイヤルデータを編集します。

ポーズダイヤル送信……▶送信先の電話番号を入力▶[通話]

[通話]を押すたびに、p（ポーズ）までのダイヤルデータが送出されます。

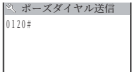
削除……登録されているダイヤルデータを削除します。

ダイヤルデータをポーズダイヤルとして送信する

1 MENU 8 4 ▶ ● **[送信]**

2 送信先の電話番号をダイヤル▶

入力した電話番号に電話がかかり、呼出中になると最初のp（ポーズ）までのダイヤルデータが表示されます。p（ポーズ）は表示されません。



3

を押すたびに、p（ポーズ）までのダイヤルデータが送出されます。最後の番号を送り終えると通話中画面になります。

■ ダイヤルデータをまとめて送出する場合

▶ （1秒以上）▶「一括送出」

相手によっては一括送出できない場合があります。

おしらせ

- 受信側の機器によっては、プッシュ信号を受信できない場合があります。
- 音声通話中にポーズダイヤル画面を表示すると、通話中の相手にダイヤルデータを送信できます。
- テレビ電話中は、ポーズダイヤルを送信できません。

プレフィックス機能を利用する

国際アクセス番号（WORLD CALL = 009130-010）や発信者番号の通知／非通知（186／184）など、電話番号の先頭に付くプレフィックス番号をあらかじめ登録しておき、電話をかけるときに付加します。

プレフィックス番号を登録する　〈プレフィックス設定〉

お買い上げ時	WORLD CALL (009130010)

- プレフィックスは7件まで登録できます。
- 番号に登録できる文字は0～9、#、＊、＋です。

1 MENU ▶「各種設定」▶「発信」▶「プレフィックス設定」

「プレフィックス設定画面」が表示されます。

プレフィックス設定画面

機能メニュー ➡P.63

2「＜未登録＞」を反転▶ ✉ [編集]

■ すでに登録されている項目の内容を変更する場合

▶変更したい項目を反転▶✉ [編集]

■ すでに登録されている項目の内容を確認する場合

▶確認したい項目を選択

3 登録名を入力

全角8文字、半角16文字まで入力できます。

4 番号（プレフィックス）を入力

番号は10桁まで入力できます。

機能 プレフィックス設定画面／国際プレフィックス設定画面

1 プレフィックス設定画面（P.63）／国際プレフィックス設定画面（P.66）▶ α [機能]▶以下の項目から選択

編集……プレフィックス、国際アクセス番号を編集します。

1件削除・全削除……プレフィックス、国際アクセス番号を1件または全削除します。

次ページにつづく

おしらせ
●「自動変換機能設定」で設定されている国際アクセス番号は削除できません。また、「自動変換機能設定」が「ON」（自動付加）に設定されている場合は、全削除も行えません。

プレフィックス番号を付加して電話をかける〈プレフィックス〉

● プレフィックス番号を付加できるのは「電話番号入力画面」および「電話帳／着信履歴／発信履歴／リダイヤル」の各詳細画面です。

＜例：電話番号入力画面でプレフィックス番号を付加して音声電話をかける場合＞

❶ 相手の電話番号を入力

❷ α［機能］▶「プレフィックス」▶登録名を選択▶ ☎

国際電話を利用する 〈WORLD CALL〉

お申し込み	不要
月額使用料	無料

WORLD CALLはドコモの携帯電話からご利用いただける国際電話サービスです。
FOMAサービスをご契約のお客様はご契約時にあわせて「WORLD CALL」もご契約いただいています（ただし、不要のお申し出をされた方を除きます）。

● 通話先は世界約240の国と地域です。
●「WORLD CALL」の料金は毎月のFOMAの通話料金と合わせてご請求いたします。
● 国際電話をかけるには電話番号を直接ダイヤルしてかける方法以外に、「+」を利用してかけたり、電話番号入力画面、リダイヤル／発信履歴画面、着信履歴画面、電話帳詳細画面の各機能メニューから「国際電話発信」や「プレフィックス」を選択してかけることができます。
● 一部ご利用になれない料金プランがあります。

国際電話ダイヤル手順の変更について

携帯電話などの移動体通信は、「マイライン」サービスの対象外であるため、WORLD CALLについても「マイライン」サービスをご利用いただけませんが、「マイライン」サービスの導入に伴い携帯電話などから国際電話をご利用になる場合のダイヤル手順が変更となりました。従来のダイヤル手順（下記ダイヤル手順から「010」を除いたもの）ではご利用いただけませんので、ご注意ください。

WORLD CALLについてのご不明な点は、取扱説明書裏面の総合お問い合わせ先をご覧になりお問い合わせください。

海外の特定3G携帯端末をご利用のお客様に対し、下記ダイヤル方法の後に✉［元番］で発信すれば「国際テレビ電話」がご利用いただけます。
● 接続可能な国および通信事業者などの情報についてはドコモのホームページをご覧ください。
● 国際テレビ電話の接続先の端末により、FOMA端末に表示される相手側の画像が乱れたり、接続できない場合があります。

電話番号をダイヤルして国際電話をかける

❶ 009130→010→国番号→地域番号（市外局番）→相手先電話番号の順にダイヤル
地域番号（市外局番）が「0」ではじまる場合には、「0」を除いてダイヤルしてください。ただし、イタリアの一般電話などにおかけになる場合は「0」が必要です。

❷ ☎
国際電話がかかります。

❸ 通話が終了したら ☎

「+」を利用して国際電話をかける

「+」を利用すれば、009130-010などの国際アクセス番号をダイヤルすることなく、国際電話をかけることができます。

● お買い上げ時は「国際ダイヤルアシスト」の「自動変換機能設定」が「ON」（自動付加）に設定されているため、国際アクセス番号が自動的にダイヤルされます。

❶ 待受画面表示中に、＋（0（1秒以上））→国番号→地域番号（市外局番）→相手先電話番号の順にダイヤル

地域番号（市外局番）が「0」ではじまる場合には、「0」を除いてダイヤルしてください。ただし、イタリアの一般電話などにおかけになる場合は「0」が必要です。

❷ ▶「発信」

国際電話がかかります。

■「＋」を国際アクセス番号に変換しないでかける場合

▶「元の番号で発信」

※本端末ではご利用になれません。

■ 電話をかけるのをやめる場合

▶「中止」

国際電話発信機能を利用して国際電話をかける

〈国際電話発信〉

電話番号に、国番号や国際アクセス番号を付加し、国際電話をかけます。

● 国番号や国際アクセス番号は「国際ダイヤルアシスト」で登録できます。

● 国際電話発信機能が利用できるのは「電話番号入力画面」および「電話帳／着信履歴／発信履歴／リダイヤル」の各詳細画面です。

＜例：電話番号入力画面で国際電話発信機能を利用する場合＞

❶ 相手の電話番号を入力

❷ α［機能］▶「国際電話発信」▶国番号を選択▶国際アクセス番号を選択

選択した国番号と国際アクセス番号が付加されます。地域番号（市外局番）が「0」ではじまる場合は自動的に先頭の「0」が削除されます（ただし、国番号で「イタリア」を選択した場合を除く）。

❸

国際電話の発信を簡単な操作でできるようにする

〈国際ダイヤルアシスト〉

お買い上げ時	自動変換機能設定：ON（自動付加） 国番号設定：「日本」（国番号：81） 国際プレフィックス設定:「WORLD CALL」(009130010)

国際電話を発信するときの設定内容を変更したり、国番号を編集することができます。設定できる項目は以下のとおりです。

設定項目	内容
自動変換機能設定	国内から国際電話をかけるときには、入力した「＋」を本機能で設定した国際アクセス番号に自動的に置き換えます。
国番号設定	国際電話をかけるときに使用する国名と国番号を編集します。お買い上げ時には22件登録されています。
国際プレフィックス設定	国際電話をかけるときに使用する国際アクセス名と国際アクセス番号を登録します。

●「＋」の自動変換について設定する

国際電話をかけるときの「＋」の自動変換について設定します。

❶ MENU▶「各種設定」▶「発信」▶「国際ダイヤルアシスト」▶「自動変換機能設定」▶「ON」

■ 自動変換しない場合

▶「OFF」

❷ 国番号を選択▶国際アクセス番号を選択

●国番号を編集する

海外から国際電話をかけるときに必要な国番号を最大22件登録できます。

国番号についてはドコモのホームページをご覧ください。

次ページにつづく

❶ MENU▶「各種設定」▶「発信」▶「国際ダイヤルアシスト」▶「国番号設定」

「国番号設定画面」が表示されます。

❷ 項目を反転▶[編集]

❸ 国名称を入力▶国番号を入力

国名称は全角8文字、半角16文字まで、国番号は5桁まで入力できます。

国番号設定画面

機能メニュー ➡P.66

機能 国番号設定画面

❶ 国番号設定画面（P.66）▶[α] [機能]▶以下の項目から選択

編集……国番号を編集します。

削除……「1件削除／選択削除／全削除」から選択します。
「複数選択について」→P.39

● 国際アクセス番号を登録する

国際電話をかけるときに電話番号の先頭に付加する国際アクセス番号を最大3件登録できます。

❶ MENU▶「各種設定」▶「発信」▶「国際ダイヤルアシスト」▶「国際プレフィックス設定」

「国際プレフィックス設定画面」が表示されます。

❷「<未登録>」を反転▶[編集]

■ すでに登録されている項目を変更する場合
▶変更したい項目を反転▶[編集]

国際プレフィックス設定画面

機能メニュー ➡P.63

❸ 国際アクセス名を入力▶国際アクセス番号を入力

国際アクセス名は全角8文字、半角16文字まで、国際アクセス番号は10桁まで入力できます。

サブアドレスを指定して電話をかける〈サブアドレス設定〉

お買い上げ時	ON

電話番号に含まれる「＊」を区切り文字とし、「＊」以降をサブアドレスとして認識するように設定します。サブアドレスはISDNで特定の通信機器へ指定着信するときや「Vライブ」でコンテンツを選択するときなどに利用します。

❶ MENU▶「各種設定」▶「発信」▶「サブアドレス設定」▶「ON」

■ 無効にする場合
▶「OFF」

おしらせ

- 以下のような場合、「＊」はサブアドレスの区切り文字にはなりません。「＊」も含めて普通の電話番号として認識されます。
  - ・電話番号の先頭に「＊」がある場合
  - ・電話番号の先頭に「186／184」があり、その直後に「＊」がある場合
  - ・「プレフィックス」で入力した番号の直後に「＊」がある場合
  - ・電話番号内に「＊590#／＊591#／＊592#」がある場合

再接続するときのアラームを設定する 〈再接続機能〉

お買い上げ時	アラーム高音

FOMA端末は音声通話中やテレビ電話中に電波の状態が悪くなって通話が途切れても、すぐに電波の状態がよくなった場合には自動的に通話を再接続します。本機能では通話を再接続しているときのアラームの鳴りかたを設定します。

- ご利用状態や電波の状態により、再接続が可能な時間は異なります。約10秒間が目安です。

1 MENU 7 7 ▶アラーム音を選択

■ アラーム音を鳴らさない場合

▶「アラームなし」

おしらせ

- 再接続されるまでの間（最長約10秒間）も通話料金がかかります。
- 電波が途切れている間、相手は無音状態となります。
- 急に電波の状態が悪くなった場合は、アラームが鳴らずに通話が切れてしまうことがあります。

周囲の騒音を抑えて通話を明瞭にする〈ノイズキャンセラ〉

お買い上げ時	ON

周囲の騒音を抑え、音声通話やテレビ電話の声を相手に聞きやすくします。

1 MENU 7 6 ▶「ON」

■ 無効にする場合

▶「OFF」

車の中で手を使わずに話す 〈車載ハンズフリー〉

FOMA端末を車載ハンズフリーキット01（別売）やカーナビなどのハンズフリー対応機器と接続することにより、ハンズフリー対応機器から音声電話の発着信などの操作ができます。
ハンズフリー対応機器の操作については、各ハンズフリー対応機器の取扱説明書をご覧ください。なお、車載ハンズフリーキット01（別売）をご利用時には、FOMA 車載ハンズフリー接続ケーブル01（別売）が必要です。

おしらせ

- ハンズフリー対応機器から操作する場合は、USBモード設定を「通信モード」にしてください。
- 着信時のディスプレイ表示や着信音などの動作は、FOMA端末の設定に従います。
- ハンズフリー対応機器から音を鳴らす設定にしている場合、FOMA端末でマナーモード設定中や着信音量を「SILENT」に設定中でも、ハンズフリー対応機器から着信音が鳴ります。
- 公共モード（ドライブモード）設定中の着信動作は、「公共モード（ドライブモード）」の設定に従います。
- 伝言メモ設定中の着信動作は、「伝言メモ」の設定に従います。
- ハンズフリー対応機器から電話帳やリダイヤルを利用してテレビ電話をかけた場合、通信速度はハンズフリー対応機器の設定に従います。設定されていない場合、通信速度は「64K」になります。
- FOMA端末から音を鳴らす設定にしている場合、通話中にFOMA端末を折り畳んだときの動作は、「クローズ動作設定」の設定に従います。ハンズフリー対応機器から音を鳴らす設定にしている場合、「クローズ動作設定」の設定にかかわらず、FOMA端末を折り畳んでも通話状態は変わりません。

音声電話／テレビ電話を受ける

1 音声電話／テレビ電話がかかってくると

着信音が鳴り、マイシグナルに着信中のアニメーションが表示されます。また「着信中画面」／「テレビ電話着信中画面」が表示されます。

■ 着もじが付いた着信の場合

着信中画面／テレビ電話着信中画面に着もじが表示されます。あらかじめ用件などを確認することができます。→P.59

次ページにつづく

着信中画面

着信中画面（着もじ付き）

機能メニュー ➡P.68

テレビ電話着信中画面

テレビ電話着信中画面（着もじ付き）

機能メニュー ➡P.68

■ 着信中に音声電話／テレビ電話を応答保留にする場合
「着信中や通話中の電話を保留にする」→P.71

2 [通話]

「通話中画面」／「テレビ電話中画面」が表示されます。
テレビ電話では、相手の音声がスピーカから流れて通話できます。

■ テレビ電話で代替画像で出る場合
▶[●]［代替画像］

■ テレビ電話中の操作について
テレビ電話では、カメラ映像を代替画像に切り替えたり、外側カメラに切り替えたり、送信する音声をミュート（消音）するなど、テレビ電話中にさまざまな操作が行えます。→P.52

■ 通話中に相手が音声電話／テレビ電話の通話を切り替えた場合
「相手が音声電話／テレビ電話を切り替えたとき」→P.69

■ 通話中の音声電話／テレビ電話を保留にする場合
「着信中や通話中の電話を保留にする」→P.71

3 通話が終了したら [終了]

着信中の表示

■ 相手の電話番号が通知されたとき
相手の電話番号が画面に表示されます。電話帳に登録されている相手からの着信の場合、電話帳に登録した名前が画面に表示されます（キー操作ロック中は名前のみ表示されます）。→P.86
- 同じ電話番号を異なる名前で複数の電話帳に登録していると、電話帳のフリガナの検索順による最初の名前が表示されます。→P.90
- シークレットデータとして登録されている場合は名前などは表示されず、電話番号のみ表示されます。
- マルチナンバーの付加番号に着信した場合は、着信中画面に付加番号の登録名が表示されます。

■ 相手の電話番号が通知されなかったとき
発信者の非通知理由が表示されます。

機能 着信中画面／テレビ電話着信中画面

1 着信中画面／テレビ電話着信中画面（P.68）▶[α]［機能］▶以下の項目から選択

着信拒否……電話を受けないで着信をそのまま切ります。

転送でんわ……電話を転送します。
「転送でんわサービス」の「開始／停止」にかかわらず転送先に接続します。

留守番電話……電話を留守番電話サービスセンターへ接続します。
「留守番電話サービス」の「開始／停止」にかかわらず留守番電話サービスセンターへ接続します。

表示切替……付加番号1または付加番号2から転送元番号に表示を切り替えます。マルチナンバー（付加番号1または付加番号2）着信で、かつ転送でんわ着信のときに選択できます。

おしらせ

- ハンズフリーを利用して通話することができます。
- 平型スイッチ付イヤホンマイク（別売）を使って電話を受けることができます。→P.338
- 着信中に▽［MEMO／CHECK］（または#）を押すと「クイック伝言メモ」へ移ります。
- キャッチホン、留守番電話サービス、転送でんわサービスのいずれかをご契約されていれば、「通話中着信設定」を有効にし、「通話中の着信動作選択」を「通常着信」に設定すると、通話中に別の電話がかかってきたときに「ププ…ププ…」という通話中着信音が鳴ります。
  - 留守番電話サービス、転送でんわサービスの場合、現在の通話を終了して着信に応答することができます。
  - キャッチホンの場合、音声電話は、現在の通話を保留にして着信に応答することができ、テレビ電話は現在の通話を終了して着信に応答することができます。

＜音声電話＞

- ●［通話］でも電話に出られます。また、／、●以外のボタンを押しても電話を受けるように設定したり（エニーキーアンサー）、ボタンを押すと着信音だけが止まるように設定することもできます（クイックサイレント）。
- 電話帳に登録されていない相手からの電話の着信動作を設定することができます。→P.141、142
- 電話帳に登録されている電話番号ごとに、電話の着信を制限することができます。→P.139

＜テレビ電話＞

- ✉［元禄］でも電話に出られます。
- テレビ電話中に代替画像を表示しているときも、テレビ電話をかけてきた相手にはデジタル通信料がかかります。
- 「転送でんわサービス」を「開始」に設定していても、転送先を3G-324M（P.54）に準拠したテレビ電話対応端末に設定していない場合は接続されません。転送先の機器をあらかじめご確認の上、転送設定を行ってください。
- テレビ電話中にメールやメッセージR／Fは受信できません（SMSは受信できます）。iモードセンターに保管されますので、テレビ電話終了後に「iモード問い合わせ」を行って受信してください。
- カメラ映像から代替画像（キャラ電）に切り替える場合、キャラ電によっては切り替えに数秒程度の時間がかかることがあります。
- iモード通信中に、テレビ電話がかかってきた場合の着信動作は、「パケット通信中着信設定」の設定に従います。

相手が音声電話／テレビ電話を切り替えたとき

相手からかかってきた音声通話中／テレビ電話中に、相手が操作を行うことにより音声電話とテレビ電話が切り替わります。

- 着信側からは切り替え操作を行うことができません。
- 切り替え操作を行うには、あらかじめ着信側が「テレビ電話切替通知」を通知するように設定しておく必要があります。→P.81
- 音声電話⇔テレビ電話切り替え対応端末どうしでご利用いただけます。

＜例：相手が音声電話からテレビ電話に切り替えた場合＞

❶ 通話中画面（P.52）▶相手がテレビ電話切り替えを行う▶「YES」

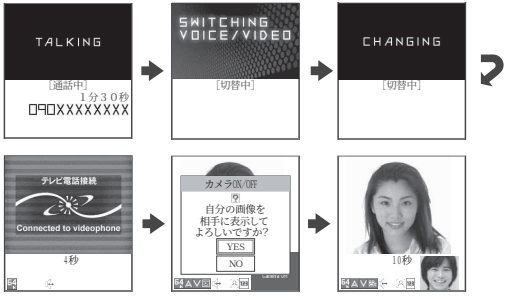
切り替え中は、切り替え中であることを示す画面が表示され、音声ガイダンスが流れます。

テレビ電話に切り替わると、自画像が相手側に送信されます。

■ 相手側に代替画像を送信する場合

▶「NO」

設定している代替画像が送信されます。



■ テレビ電話から音声電話に切り替えた場合

▶テレビ電話中画面（P.52）▶相手が音声電話切り替えを行う

音声電話に切り替わります。

次ページにつづく

おしらせ

＜音声電話⇒テレビ電話切り替え時＞

- 切り替え後のハンズフリーの設定は、「ハンズフリー切替」に従います。

＜テレビ電話⇒音声電話切り替え時＞

- ハンズフリーの設定は解除されます。

ダイヤルボタンを押して電話に出られるようにする

〈着信アンサー設定〉

お買い上げ時　エニーキーアンサー

電話がかかってきたとき、すぐに着信音を止めたり、電話に出られるように設定します。周囲に迷惑がかかるような場所で電話がかかってきた場合などに便利です。

❶ MENU 5 8 ▶ 以下の項目から選択

エニーキーアンサー……音声電話に対して有効な機能で、以下のボタンで通話を開始できます。

📞、● [通話]、0～9、＊、CLR、十、✉、▲、▼

※テレビ電話の場合、通常のボタン操作（📞、● [下通話]、✉ [元電話]）でのみ通話を開始できます。

クイックサイレント……以下のボタンを押すかFOMA端末を開くと、相手には呼び出し音を鳴らしたまま、着信動作のみを止めることができます。

0～9、＊、CLR、十、▲、▼または✉（音声電話の場合のみ）

電話に出るときは、📞、● [通話／ 下通話]、✉ [元電話]（テレビ電話のみ）を押します。

OFF……通常のボタンでのみ通話を開始できます。

📞、● [通話／ 下通話]、✉ [元電話]（テレビ電話のみ）

おしらせ

- 「クイックサイレント」に設定していても、マナーモード設定中は「エニーキーアンサー」として機能します。
- 「エニーキーアンサー」や「クイックサイレント」に設定中でも、5（バックライトのON／OFF）や8（プライバシーアングルのON／OFF）を1秒以上押すと、「エニーキーアンサー」や「クイックサイレント」は動作しません。
- 平型スイッチ付イヤホンマイク（別売）を接続しているときは、「着信アンサー設定」にかかわらず、平型スイッチ付イヤホンマイクのスイッチを押しても電話を受けることができます。
- 「エニーキーアンサー」に設定しているとき、FOMA端末を閉じた状態で▲、▼を押すと通話中保留になります。その際、「クローズ動作設定」を「保留」に設定していると保留音が流れますが、「ミュート」または「終話」に設定していると保留音は流れません。
- 「外部ボタン操作」を「閉じた時無効」に設定している場合、FOMA端末を閉じている状態では▲、▼を押しても、「エニーキーアンサー」や「クイックサイレント」は動作しません。

FOMA端末を折り畳んで通話を終了／保留する

〈クローズ動作設定〉

お買い上げ時　終話

音声通話中やテレビ電話中にFOMA端末を折り畳んだときの動作を設定します。

❶ MENU 1 8 ▶ 以下の項目から選択

ミュート……音声をミュート（消音）します。テレビ電話の場合、相手側に「代替画像」が送信されます。保留音は流れません。

保留……通話を保留（通話中保留）にします。折り畳んでいる間、相手に「保留音設定」で設定した保留音が流れます。テレビ電話の場合、相手側に通話中保留画像が送信されます。

スピーカ鳴動する……相手に保留音が流れ、スピーカからも保留音が流れます。

スピーカ鳴動しない（お買い上げ時）……相手にのみ保留音が流れます。

終話……通話を終了します。📞を押す操作と同じです。

おしらせ

- マナーモード設定中は「スピーカ鳴動する」を選択していてもスピーカから音は鳴りません。

● 平型スイッチ付イヤホンマイク（別売）を接続している場合、本機能は無効になり、FOMA端末を折り畳んでも通話状態は変化しません。ただし、カメラ映像でテレビ電話を使用している場合は、FOMA端末を折り畳むと代替画像に切り替わります。
●「保留」に設定していても、「キャッチホン」で切り替え通話しているときにFOMA端末を折り畳むと「ミュート」の動作になります。

相手の声の音量を調節する 〈受話音量〉

お買い上げ時 | LEVEL4

1 待受画面表示中▶[▲]（1秒以上）▶[▲]で音量を調節

[▲]（1秒以上）で受話音量画面が表示されます。受話音量画面の表示中に2秒以上操作がなければ、受話音量調節を終了します。
「LEVEL1」（最小）～「LEVEL6」（最大）の6段階で調節します。

■ 音声通話中に調節する場合
▶[▲]／[▼]［MEMO／CHECK］

■ テレビ電話中に調節する場合
▶[▲]

おしらせ
● 音声通話中に待受中と同様、[▲]（1秒以上）で調節することもできます。
● 通話中に調節した音量は、通話が終わっても設定は保持されます。

着信音の音量を調節する 〈着信音量〉

お買い上げ時 | すべてLEVEL4

音声電話やテレビ電話がかかってきたときや、メールやチャットメール、メッセージR／Fを受信したときの着信音の大きさをそれぞれ6段階で調節します。また、着信音を消したり、次第に音量を大きくすることもできます。

1 [MENU] [5] [0]▶音量を調節する項目を選択

「電話」を選択すると、音声電話、64Kデータ通信などの着信音量が調節されます。
「メール」を選択すると、iモードメールやSMS、パケット通信の着信音量が調節されます。

2 [▲]で音量を調節▶[●]［確定］

■ 次第に音量を大きくする場合
▶「LEVEL6」のときに[▲]
「STEP」に設定すると、3秒ごとに無音、「LEVEL1」～「LEVEL6」の順に着信音量が大きくなります。

■ 着信音を消す場合
▶「LEVEL1」のときに[▼]
待受画面のアイコンで、「SILENT」に設定されている項目が確認できます。
:「電話」、「テレビ電話」を1つ以上「SILENT」に設定
:「メール」、「チャットメール」、「メッセージR」、「メッセージF」を1つ以上「SILENT」に設定
:「」と「」の両方を設定

おしらせ
● 本機能で設定した「電話」の着信音量は、音声電話の「着信音選択」、「スケジュール」や「To Doリスト」のアラーム音などに反映されます。

着信中や通話中の電話を保留にする 〈応答保留／通話中保留〉

＜例：着信中の電話を保留にする場合＞

1 着信中▶[☎]

「ピッピッピッ」という音が鳴り、応答保留の状態になります。
相手には現在応答できないとのガイダンスが流れ、電話がつながった状態のまま保留されます。

■ 通話中の電話を保留にする場合
▶通話中▶[CLR]

■ 応答保留中／通話中保留中に電話を切る場合
▶[☎]

次ページにつづく

■ 応答保留中／通話保留中に相手が電話を切った場合
通話が切れます。

❷ 電話に出られるようになったら

通話保留中の場合はCLRを押しても保留を解除できます。

おしらせ

- 応答保留中や通話保留中でも、通話料金がかかります。

＜応答保留＞

- 「着信音量」の「電話」、「テレビ電話」を「SILENT」に設定している場合や、マナーモード設定中（「電話着信音量」が「SILENT」）は、応答保留にしたときの「ピッピッピッ」という音は鳴りません。
- 「留守番電話サービス」や「転送でんわサービス」をご契約されている場合は、着信中に機能メニューから「留守番電話」または「転送でんわ」を選択すると、留守番電話サービスセンターへの接続や転送先への転送ができます。

＜通話保留＞

- 通話保留中は、自分のFOMA端末も保留音が鳴ります。ただし、「着信音量」の「電話」を「SILENT」に設定している場合や、マナーモード設定中（「電話着信音量」が「SILENT」）は、保留音は鳴りません。

保留音を設定する

〈保留音設定〉

お買い上げ時	応答保留音：応答保留音１　通話中保留音：メリーさんのヒツジ

応答保留中／通話保留中に、相手に流れるガイダンスを設定します。

❶ MENU▶「各種設定」▶「通話」▶「保留音設定」▶以下の項目から選択

応答保留音……応答を保留にするときのガイダンスを設定します。

応答保留音１……「ただいま電話に出ることができません。そのままお待ちになるかしばらくたってからおかけ直しください」というガイダンスが流れます。

応答保留音２……「ただいま電話に出ることができません。しばらくたってからおかけ直しください」というガイダンスが流れます。

おしゃべり１・おしゃべり２※……「おしゃべり機能」で録音した内容が流れます。

通話中保留音……通話中の保留音を設定します。

メリーさんのヒツジ……「メリーさんのヒツジ」が流れます。

交響曲第２５番ト短調……「交響曲第２５番ト短調」が流れます。

おしゃべり１・おしゃべり２※……「おしゃべり機能」で録音した内容が流れます。

※：おしゃべりが録音されていないときは表示されません。

■ ガイダンスの内容を確認する場合
▶☑［デモ］

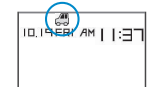
公共モード（ドライブモード）を利用する

〈公共モード（ドライブモード）〉

公共モードは、公共性の高い場所でのマナーを重視した自動応答サービスです。公共モードに設定すると、電話をかけてきた相手に運転中もしくは通話を控える必要のあるような場所（電車、バス、映画館など）にいるため、電話に出られないことを通知するガイダンスが流れて通話を終了します。

- 公共モードの設定／解除は、待受画面表示中のみできます（画面に「　」が表示されているときも可能です）。
- 公共モードを設定中でも電話をかけることができます。
- 本機能は、データ通信中はご利用できません。
- 番号通知お願いサービスを「開始」に設定中に「非通知設定」の着信をした場合、番号通知お願いガイダンスが流れます（公共モードのガイダンスは流れません）。

❶ 待受画面表示中▶＊（１秒以上）



公共モードに設定され、「　」が表示されます。電話をかけてきた相手に「ただいま運転中もしくは携帯電話の利用を控えなければならない場所にいるため、電話に出られません。のちほどおかけ直しください。」というガイダンスが流れます。

■ 公共モード（ドライブモード）を解除する場合
▶待受画面表示中▶＊（１秒以上）
公共モードが解除され、「　」の表示が消えます。

おしらせ

- 「伝言メモ」を「ON」に設定していても公共モードが優先され、「伝言メモ」は無効となります。

●マナーモードを同時に設定しているときは、公共モードの設定が優先されます。
●公共モード設定中に緊急通報番号（110番、119番、118番）へ音声電話をかけると、公共モードが解除されます。
●公共モード設定中には、以下の音が鳴りません。
・音声電話／テレビ電話着信音　・メール着信音
・メッセージR／F着信音　・チャットメール着信音
・アラームのアラーム音　・スケジュールのアラーム音
・To Doリストのアラーム音　・通話料金通知のアラーム音
・電池切れアラーム音　・充電確認音
・iアプリのソフトの鳴動　・パケット通信／64Kデータ通信着信音

●公共モード（ドライブモード）を設定すると

FOMA端末に音声電話、テレビ電話の着信があっても着信音は鳴りません。「着信履歴」には「不在着信履歴」として記憶され、「不在着信あり」のデスクトップアイコンが待受画面に表示されます。

● 音声電話をかけてきた相手には、運転中もしくは携帯電話の利用を控えなければならない場所にいるため電話に出られないことを通知するガイダンスが流れ通話を終了します。
● テレビ電話をかけてきた相手には、公共モードの映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。
● メールを受信したときには着信音は鳴らずに「新着メールあり」のデスクトップアイコンが待受画面に表示されます。

おしらせ

●公共モード設定中でも、電源が入っていない場合や画面に「 」が表示されている場合は、公共モードの通知はされずに「 」が表示されているときと同じガイダンスが流れます。

●各ネットワークサービスと公共モード（ドライブモード）設定中の着信動作

公共モードと各ネットワークサービスを同時に設定しているときに音声電話およびテレビ電話がかかってくると、以下のように動作します。

サービス名	音声電話を着信した場合	テレビ電話を着信した場合
留守番電話サービス	・相手に公共モードのガイダンスを流した後、留守番電話サービスセンターに接続されます。※	・相手に公共モードの映像ガイダンスは表示されず、留守番電話サービスセンターに接続されます。
転送でんわサービス	・相手に公共モードのガイダンスを流した後、転送先に転送します。※ ・相手に流れる公共モードのガイダンスの有無は、転送でんわサービスの設定に従います。	・相手に公共モードの映像ガイダンスは表示されず、かかってきたテレビ電話を転送先に転送します。 ・転送先を3G-324Mに準拠したテレビ電話に設定していないと接続されません。
キャッチホン	・相手に公共モードのガイダンスを流した後、通話を終了します。	・相手に公共モードの映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。
迷惑電話ストップサービス	・迷惑電話拒否登録されている電話番号の場合は、相手に接続できなかったことを通知するガイダンスを流した後、通話を終了します。 ・それ以外の電話番号の場合は、相手に公共モードのガイダンスを流した後、通話を終了します。	・迷惑電話拒否登録している電話番号の場合は、相手に接続できなかったことを通知する映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。 ・それ以外の電話番号の場合は、相手に公共モードの映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。
番号通知お願いサービス	・相手が電話番号を通知していない場合は、相手に番号通知お願いのガイダンスを流した後、通話を終了します。 ・相手が電話番号を通知している場合は、相手に公共モードのガイダンスを流した後、通話を終了します。	・相手が電話番号を通知していない場合は、相手に番号通知お願いの映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。 ・相手が電話番号を通知している場合は、相手に公共モードの映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。

※： 呼出時間を0秒に設定している場合、公共モードのガイダンスは流れず、「留守番電話サービス」または「転送でんわサービス」になります。また、「着信履歴」には記憶されず、「不在着信あり」のデスクトップアイコンも表示されません。

公共モード（電源OFF）を利用する

〈公共モード（電源OFF）〉

公共モード（電源OFF）は、公共性の高い場所でのマナーを重視した自動応答サービスです。公共モード（電源OFF）に設定すると、電源を切っている場合の着信時に、電話をかけてきた相手に電源を切る必要がある場所（病院、飛行機、電車の優先席付近など）にいるため、電話に出られないことを通知するガイダンスが流れ、通話を終了します。

❶ 待受画面表示中▶＊ 2 5 2 5 1▶📞

公共モード（電源OFF）が設定されます（待受画面上の変化はありません）。

公共モード（電源OFF）設定後、電源を切った際の着信時に「ただいま携帯電話の電源を切る必要がある場所にいるため、電話に出られません。のちほどおかけ直しください。」というガイダンスが流れます。

■ 公共モード（電源OFF）を解除する場合

▶待受画面表示中▶＊ 2 5 2 5 0▶📞

公共モード（電源OFF）が解除されます。

■ 公共モード（電源OFF）の設定を確認する場合

▶待受画面表示中▶＊ 2 5 2 5 9▶📞

公共モード（電源OFF）の設定状況を確認できます。

●公共モード（電源OFF）を設定すると

「＊25250」をダイヤルして公共モード（電源OFF）を解除するまで設定は継続されます。電源を入れるだけでは設定は解除されません。サービスエリア外または電波が届かないところにいる場合も、公共モード（電源OFF）ガイダンスが流れます。

- 音声電話をかけてきた相手には、電源を切る必要がある場所にいるため、電話に出られないことを通知するガイダンスが流れ、通話を終了します。
- テレビ電話をかけてきた相手には、公共モード（電源OFF）の映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。

●各ネットワークサービスと公共モード（電源OFF）設定中の着信動作

公共モード（電源OFF）と各ネットワークサービスを同時に設定しているときに音声電話およびテレビ電話がかかってくると、以下のように動作します。

サービス名	音声電話を着信した場合	テレビ電話を着信した場合
留守番電話サービス	・相手に公共モード（電源OFF）のガイダンスを流した後、留守番電話サービスセンターに接続されます。※	・相手に公共モード（電源OFF）の映像ガイダンスは表示されず、留守番電話サービスセンターに接続されます。
転送でんわサービス	・相手に公共モード（電源OFF）のガイダンスを流した後、転送先に転送します。※ ・相手に流れる公共モード（電源OFF）のガイダンスの有無は、転送でんわサービスの設定に従います。	・相手には公共モード（電源OFF）の映像ガイダンスは表示されず、かかってきたテレビ電話を転送先に転送します。 ・転送先を 3G-324M に準拠したテレビ電話に設定していないと接続されません。
迷惑電話ストップサービス	・迷惑電話拒否登録されている電話番号の場合は、相手に接続できなかったことを通知するガイダンスを流した後、通話を終了します。 ・それ以外の電話番号の場合は、相手に公共モード（電源OFF）のガイダンスを流した後、通話を終了します。	・迷惑電話拒否登録されている電話番号の場合は、相手に接続できなかったことを通知する映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。 ・それ以外の電話番号の場合は、相手に公共モード（電源OFF）の映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。
番号通知お願いサービス	・相手が電話番号を通知していない場合は、相手に番号通知お願いのガイダンスを流した後、通話を終了します。 ・相手が電話番号を通知している場合は、相手に公共モード（電源OFF）のガイダンスを流した後、通話を終了します。	・相手が電話番号を通知していない場合は、相手に番号通知お願いの映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。 ・相手が電話番号を通知している場合は、相手に公共モード（電源OFF）の映像ガイダンスを表示した後、通話を終了します。

※： 呼出時間を0秒に設定している場合、公共モード（電源OFF）のガイダンスは流れず、「留守番電話サービス」または「転送でんわサービス」になります。また、「着信履歴」には記憶されず、「不在着信あり」のデスクトップアイコンも表示されません。

不在着信のお知らせのしかたを設定する〈確認機能設定〉

お買い上げ時	ボイス

FOMA端末を折り畳んでいるときに、不在着信や新着メールがあるかどうかを［MEMO／CHECK］で確認するときのお知らせのしかたを設定します。

- 「マイシグナル設定」（P.114）を「ON」に設定すると、本機能の着信イルミネーションは動作しません。ただし、不在着信や新着メールなどがない場合は動作します。
- 設定項目と［MEMO／CHECK］での確認動作の関係は以下のとおりです。

設定項目	不在着信や新着メールなどがある場合		不在着信や新着メールなどがない場合	
	音と振動※1	着信イルミネーション※2	音と振動※1	着信イルミネーション
電子音	「ピピ、ピピ」という音でお知らせします。	「着信イルミネーション」の設定色で、約5秒間点灯します。電話やメールなど、異なる種類の着信がある場合は、それぞれの色が1秒ずつ切り替わります。	「ピピピ」という音が鳴ります。	「色12」で約5秒間点滅します。
ボイス	「ピピ」という音と、「新着チャットメールあり」「新着メールあり」「不在着信あり」「伝言メモあり」「留守番電話あり」の順に声（ボイスモニター）でお知らせします。		「ピピ」という音の後、現在の時刻を声（ボイスクロック）でお知らせします。	

※1：振動でお知らせするのは、「バイブレータ」の「電話」を「OFF」以外に設定している場合です。
※2：「着信イルミネーション」の点滅色が「グラデーション」に設定されている場合は、不在着信は「色5」、新着メールは「色1」、新着チャットメールは「色3」で点滅します。

1 MENU 6 5 ▶ **「電子音」または「ボイス」**

■ 確認音を鳴らさない場合

▶「OFF」

おしらせ

- 本機能は待受画面に「不在着信あり」や「新着メールあり」、「新着チャットメールあり」などのデスクトップアイコンが表示されているときに「あり」としてお知らせします。→P.119
- 以下のような場合、［MEMO／CHECK］で不在着信や新着メールを確認できません。
  - ・外部ボタン操作を「閉じた時無効」に設定している場合
  - ・確認機能設定を「OFF」に設定している場合
  - ・ミュージックプレイヤーで音楽再生中の場合
- 音量は「着信音量」の「電話」で設定した音量になります（「SILENT」「STEP」に設定されている場合は「LEVEL2」の音量になります）。
- マナーモード設定中（「電話着信音量」が「SILENT」、「バイブレータ」が「OFF」以外）は、音が鳴らず振動でお知らせします。
- iモードセンターに保管されている新着メールを本機能で確認することはできません。
- お知らせ中にFOMA端末を開くとお知らせを停止します。

電話に出られないときに用件を録音／録画する〈伝言メモ〉

お買い上げ時	伝言メモ：OFF　応答メッセージ：標準　呼出時間：13秒

音声電話やテレビ電話に出られないときに、かけてきた相手の用件をお客様に代わってFOMA端末に録音／録画します。

- 本機能と留守番電話サービスとの違いは以下のとおりです。

項目	伝言メモ	留守番電話サービス
録音／録画時間と件数	・音声電話：最大20秒、5件まで ・テレビ電話：最大20秒、2件まで	・音声電話：最大3分、20件まで ・テレビ電話：最大3分、20件まで
保存期間	制限なし	最大72時間
保存場所	FOMA端末内	留守番電話サービスセンター
再生可能な条件	圏内、圏外の制限なく再生可	圏内のみで再生可

次ページにつづく

項目	伝言メモ	留守番電話サービス
録音／録画可能な条件	・電話を受ける側が、圏内で電源が入っている場合に録音／録画可 ・伝言メモを「ON」に設定	・電話を受ける側が、圏内または圏外で、電源を切っていても録音／録画可 ・「留守番電話サービス開始」を設定（P.359）

伝言メモを設定する

❶ MENU 5 5 ▶以下の項目から選択

ON……応答メッセージの種類を選択します。

標準……「ただいま電話に出ることができません。ピーッという発信音の後に20秒以内でお名前とご用件をお話しください。」と流れます。

プライベート……「せっかく電話をもらったけど、いま出られません。ピーッという発信音の後にメッセージを入れてね。」と流れます。

英語……「I can't take your call now. Please leave the message. Thank you.」と流れます。

おしゃべり1・おしゃべり2※……「おしゃべり機能」で録音した音声が流れます。

OFF……伝言メモの設定を解除します。

※： おしゃべりが録音されていないときは表示されません。

❷ 呼出時間（000～120秒の3桁）を入力

自動的に伝言メモが設定され、待受画面に「」と「」が表示されます。

おしらせ

- 録音／録画件数がいっぱいのとき（音声電話5件、テレビ電話2件）は、伝言メモを「ON」に設定できません。
- 応答メッセージの選択画面で［デモ］を押すと、反転表示している応答メッセージの内容を確認することができます。
- 応答メッセージを「おしゃべり1」「おしゃべり2」に設定しているときに、「おしゃべり1」「おしゃべり2」を消去した場合、応答メッセージは「標準」になります。

- 「留守番電話サービス」や「転送でんわサービス」を伝言メモと同時に設定しているときに伝言メモを優先させるには、留守番電話サービスや転送でんわサービスの呼出時間よりも伝言メモの呼出時間を短く設定してください。
- 「呼出時間表示設定」で設定した無音時間が伝言メモの呼出時間よりも長いと、呼出動作を行わず伝言メモに移行します。呼出動作を行ってから伝言メモに移行させるには、伝言メモの呼出時間を無音時間よりも長く設定してください。
- 「発着信識別機能」で電話番号ごと、「グループ識別機能」でグループごとに応答メッセージを設定することもできます。

伝言メモを「ON」に設定中に電話がかかってくると

設定した時間を経過すると伝言メモが起動します。

- 音声電話をかけてきた相手には、応答メッセージが流れ録音を開始します。
- テレビ電話をかけてきた相手には、「伝言メモ準備中　Preparing」画像を送信し応答メッセージを再生、「伝言メモ録画中 Recording」画像を送信し録画を開始します。

■伝言メモの録音／録画がはじまると

- 録音／録画中の画面が表示されます。録音中はFOMA端末の受話口から相手の声が聞こえます。

例：音声電話

■録音中に音声電話に出る場合

▶

■録画中にテレビ電話に出る場合

▶カメラ映像で出るときは、代替画像で出るときは［画像］

■伝言メモの録音／録画が終了すると

- 元の画面に戻り、待受画面には「不在着信あり」と「伝言メモあり」または「テレビ電話伝言メモあり」のデスクトップアイコンが表示されます。デスクトップアイコンを選択すると、それぞれの内容を確認できます。→P.77

- ディスプレイ上部のアイコン表示エリアには、それぞれの録音／録画件数を示すアイコンが表示されます。

～：音声電話伝言メモ（1件～5件）

／：テレビ電話伝言メモ（1件／2件）

おしらせ

- 録音／録画件数がいっぱいのとき（音声電話５件、テレビ電話２件）は、伝言メモを録音／録画できません。
- マナーモードを設定している場合、録音中の相手の声は聞こえません。
- 伝言メモの録音／録画中はほかの電話がかかってきても受けることができません。

■お願い

FOMA端末の故障・修理やその他の取扱いによって、メモ機能で録音（録画）した内容が消失する場合があります。当社としては責任を負いかねますので、万一に備えメモ機能で録音（録画）した内容は、メモなどに控えをお取りくださるようお願いします。

着信中の電話に出られないときに用件を録音／録画する 〈クイック伝言メモ〉

伝言メモを「ON」に設定していなくても、着信中にボタン１つで用件を録音／録画します。

❶ 着信中▶[MEMO／CHECK]

伝言メモの録音／録画が開始されます。

■ 伝言メモの録音／録画開始と同時にマナーモードに設定する場合

▶着信中▶[#]

おしらせ

- この操作で「伝言メモ」を「ON」にすることはできません。
- 録音／録画件数がいっぱいのとき（音声電話５件、テレビ電話２件）に音声電話やテレビ電話がかかってきた場合は、伝言メモは起動せず着信し続けます（[#]を押したときは、「マナーモード選択」で設定された動作条件で着信し続けます）。

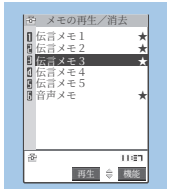
伝言メモや音声メモを再生／消去する

- 未再生の伝言メモがある場合は待受画面に「📩」（伝言メモあり）または「📩」（テレビ電話伝言メモあり）が表示されます。

＜例：未再生の伝言メモを確認する場合＞

❶ 待受画面表示中▶●▶「📩」（伝言メモあり）または「📩」（テレビ電話伝言メモあり）を選択

「メモの再生／消去画面」または「動画メモの再生／消去画面」が表示されます。
録音／録画されている項目に「★」が付きます。



例：メモの再生／消去画面

■ メニュー操作で伝言メモを再生する場合

▶[MENU]▶「LifeKit」▶「メモの再生／消去」（音声）または「動画メモの再生／消去」

機能メニュー ➡P.78

❷ 再生する項目を選択

＜伝言メモ／音声メモ＞

「ピッ」という音が鳴って再生がはじまります。再生が終了すると「ピッピッ」という音が鳴り、「メモの再生／消去画面」に戻ります。
待受画面表示中に[MEMO／CHECK]を押しても、メモを再生できます。

■ 再生中に次のメモを再生する場合

▶[MEMO／CHECK]
[MEMO／CHECK]を押すごとに、新しい順で伝言メモが再生されます。
音声メモは最後に再生されます。

■ 停止する場合

▶●[停止]または[CLR]
「メモの再生／消去画面」に戻ります。

＜テレビ電話伝言メモ＞

再生がはじまります。再生が終了すると、「動画メモの再生／消去画面」に戻ります。

■ 再生中に別のメモを再生する場合

▶

■ 再生中に音量を調節する場合

▶

次ページにつづく

■ 再生中にスピーカのON／OFFを切り替える場合
▶α［機能］▶「スピーカー ON」または「スピーカー OFF」

■ 再生を一時停止する場合
▶●［停止］
再生を再開するときは●［再生］

■ 停止する場合
▶CLR
「動画メモの再生／消去画面」に戻ります。

■ 再生中に表示されている電話番号に音声電話、テレビ電話を発信する場合
▶✆（音声電話）／✉［テレ電］（テレビ電話）

■ 再生中のメモを消去する場合
▶α［機能］▶「消去」▶「YES」

機能 メモの再生／消去画面（音声／動画）

❶ メモの再生／消去画面（P.77）▶α［機能］▶以下の項目から選択

再生……再生します。

1件消去……伝言メモ、音声メモを1件消去します。

伝言メモ全消去※……伝言メモをすべて消去します。音声メモは消去されません。

全消去……伝言メモ、音声メモをすべて消去します。

※： メモの再生／消去画面（音声）でのみ利用できます。

■ お願い
FOMA端末の故障・修理やその他の取扱いによって、メモ機能で録音（録画）した内容が消失する場合があります。当社としては責任を負いかねますので、万一に備えメモ機能で録音（録画）した内容は、メモなどに控えをお取りくださるようお願いします。

キャラ電を利用する

テレビ電話で自分の映像の代わりにキャラクタを送信します。「キャラ電とは」→P.274

- 「画像選択」の「代替画像選択」から「キャラ電」を設定しておくと、お気に入りのキャラ電を表示できます。
  また、電話帳や発着信識別機能にキャラ電を設定しておいてもキャラ電を利用できます。
- テレビ電話中にカメラ映像からキャラ電に切り替えるには、機能メニューから「代替画像切替」を選択します。

❶ テレビ電話がかかってきたら●［代替画像］

❷ ダイヤルボタンを押してキャラ電を操作する

キャラ電

ダイヤルボタンを押して、そのボタンに割り当てられているアクションを表現します。

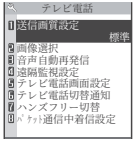
■ アクション一覧を確認する場合
▶＊
十でアクションを選択してそのアクションを実行することもできます。

■ アクションモードを切り替える場合
▶α［機能］▶「キャラ電設定」▶「アクション切替」
「全体アクション」と「パーツアクション」が切り替わります。
「キャラ電を操作する」→P.275

相手側に送信する映像について設定する

❶ MENU ▶「各種設定」▶「テレビ電話」

「テレビ電話設定画面」が表示されます。



テレビ電話設定画面

❷ 以下の項目から選択

送信画質設定……テレビ電話中の画質を設定します。

標準（お買い上げ時）……画質、動きともに標準の設定です。

画質優先……きめ細やかな映像で送信します。動きが少ない場合に有効です。

動き優先……動きが滑らかな映像で送信します。動きが多い場合に有効です。

画像選択……「テレビ電話中に送信する画像を設定する」→P.79

音声自動再発信……テレビ電話に接続できなかった場合の動作を設定します。

ON……テレビ電話に接続できなかった場合、自動的に音声電話に切り替えて電話をかけます。

OFF（お買い上げ時）……テレビ電話に接続できなかったメッセージが表示され、待受画面に戻ります。

遠隔監視設定……「外出先から室内の様子などを確認する」→P.83

テレビ電話画面設定……「テレビ電話中に表示される映像について設定する」→P.81

テレビ電話切替通知……「音声電話とテレビ電話の切り替えについて設定する」→P.81

ハンズフリー切替……「テレビ電話のハンズフリーについて設定する」→P.80

パケット通信中着信設定……「i モード中にテレビ電話がかかってきたときの応答方法を設定する」→P.81

●テレビ電話中に送信する画像を設定する

〈画像選択〉

お買い上げ時	応答保留選択、通話保留選択：内蔵 代替画像選択：キャラ電（Dimo） 伝言メモ選択、伝言メモ準備選択、音声メモ選択：内蔵

カメラ映像の代わりに送信する画像を設定します。

- 設定できる画像は、ファイルサイズが100Kバイト以下で、横690×縦690ドット以下のJPEG画像、横690×縦480、横480×縦690ドット以下のGIF画像です（ただし、ファイル制限が設定されている画像は除く）。
- テレビ電話を終了しても、本機能の設定は保持されます。

❶ テレビ電話設定画面（P.79）▶「画像選択」▶以下の項目から選択

応答保留選択……応答保留のときに送信する画像を設定します。

通話保留選択……通話中保留のときに送信する画像を設定します。

代替画像選択……代替画像のときに送信する画像を設定します。

伝言メモ選択……テレビ電話伝言メモ録画中に送信する画像を設定します。

伝言メモ準備選択……テレビ電話伝言メモ準備中に送信する画像を設定します。

音声メモ選択……音声メモ録音中に送信する画像を設定します。

❷ 送信する画像を選択

内蔵……メッセージのみを送信します。

自作……画像とメッセージを送信します。

■ 設定内容を変更する場合

▶α［機能］▶「設定内容変更」▶フォルダを選択▶画像を選択

キャラ電※……「代替画像設定」で設定されているキャラ電を送信します。

キャラ電一覧画面の機能メニュー→P.276
キャラ電の優先順位→P.88

次ページにつづく

■ 設定内容を変更する場合
▶α［機能］▶「設定内容変更」▶画像を選択

※：「代替画像選択」を選択したときのみ表示されます。

■送信されるメッセージについて

応答保留の場合　　：「応答保留中　On Hold」
通話中保留の場合　：「保留　Holding」
代替画像を送信の場合：「カメラオフ　Camera Off」
テレビ電話伝言メモ録画中の場合：「伝言メモ録画中　Recording」
テレビ電話伝言メモ準備中の場合：「伝言メモ準備中　Preparing」
音声メモ録音中の場合：「音声メモ録音中　Recording Voice only」

おしらせ

＜送信画質設定＞
- テレビ電話中に機能メニューから設定することもできます。ただし、テレビ電話を終了すると、本機能の設定に戻ります。
- テレビ電話中に電波状況が悪くなった場合、「送信画質設定」の設定内容にかかわらず、画像がモザイク表示になるときがあります。

＜画像選択＞
- GIF画像の種類によっては「自作」に設定できない場合があります。
- 画像を確認するときは、確認したい項目を反転し、✉［デモ］を押します。
- 設定した静止画は自分のFOMA端末と相手の電話機の双方に表示されます。ただし、伝言メモの応答メッセージは相手側にのみ送信されます。
- 貼り付け元の静止画を削除すると、相手には「内蔵」の静止画が表示（送信）されます。
- 代替画像に設定したキャラ電を削除したときなど、「キャラ電」の代替画像が表示できない場合は、内蔵されているキャラ電「Dimo」を送信します。内蔵されているキャラ電「Dimo」が削除されている場合は「内蔵」の静止画の代替画像を送信します。

＜音声自動再発信＞
- 音声電話に切り替えて再発信したときの通話料金は、デジタル通信料ではなく音声通話料になります。
- 再発信が行われたとき、「リダイヤル／発信履歴」には音声電話の履歴だけが記憶されます。
- 音声自動再発信を「ON」に設定している場合でも、相手が話し中など、ネットワークや相手の状況によって再発信が行われない場合があります。

テレビ電話中に自分の顔を確認する　〈ビジュアルチェック〉

❶テレビ電話中画面（P.52）▶α［機能］▶「ビジュアルチェック」

内側カメラの映像で確認することができます。
ビジュアルチェック中は「🖼」が表示されます。
相手には代替画像が送信されます。

❷α［機能］▶「ビジュアルチェック終了」

ビジュアルチェックを終了し、ビジュアルチェック前の状態に戻ります。

送信する画像を拡大する

テレビ電話中に自分側の映像を拡大して相手側に送信します。

- ズームは、外側カメラのときに約3.5倍までの16段階に調節できます。内側カメラのときは約2.0倍までの2段階に調節できます。
- テレビ電話中は内側カメラと外側カメラの切り替えなどを行っても、それぞれのズームの倍率を保持します。テレビ電話を終了すると、ズームは標準に戻ります。
- 代替画像を送信中のときは画像を拡大できません。

❶テレビ電話中▶📹▶倍率を調節

テレビ電話のハンズフリーについて設定する　〈ハンズフリー切替〉

お買い上げ時	ON

テレビ電話での通話開始時に、自動的にハンズフリーに切り替わるように設定します。

1 テレビ電話設定画面（P.79）▶「ハンズフリー切替」▶「ON」

■ 切り替えない場合

▶「OFF」

おしらせ

- ハンズフリー切替を「ON」に設定していても、通話中に[ ][ ]を押してハンズフリーを解除できます。
- 以下の場合はハンズフリー切替を「ON」に設定していても、自動的にハンズフリーに切り替わりません。
  - ・マナーモード設定中の場合
  - ・平型スイッチ付イヤホンマイク（別売）接続中（ただし、マイクは「イヤホン接続時マイク切替」の設定に従います）
  - ・着信時に応答保留または伝言メモが起動した場合

テレビ電話中に表示される映像について設定する

〈テレビ電話画面設定〉

お買い上げ時　親画面表示：親画面相手画像表示　内側カメラ反転表示：ON

親画面に表示される映像や自画像の表示方法について設定します。

1 テレビ電話設定画面（P.79）▶「テレビ電話画面設定」▶以下の項目から選択

親画面表示……テレビ電話の親画面表示について「親画面相手画像表示／親画面自画像表示」から選択します。
「親画面相手画像表示」は相手側のカメラ映像を、「親画面自画像表示」は自分側のカメラ映像を親画面に表示します。

内側カメラ反転表示……通話中に自分側のFOMA端末に表示される自画像を鏡像表示にするか（ON）、正像表示にするか（OFF）を設定します。

音声電話とテレビ電話の切り替えについて設定する

〈テレビ電話切替通知〉

お買い上げ時　切替機能通知開始

自分のFOMA端末が音声電話とテレビ電話の切り替えが可能な端末であることを、相手側のFOMA端末に通知するかしないかを設定します。

- 「切替機能通知開始」に設定すると、相手側の FOMA 端末はテレビ電話と音声電話を切り替えることができますが、「切替機能通知停止」に設定すると、切り替えることができなくなります。
- 通話中または「[ ]」が表示されているときは、本機能の設定を行うことはできません。

1 テレビ電話設定画面（P.79）▶「テレビ電話切替通知」▶以下の項目から選択

切替機能通知開始……相手側のFOMA端末に、自分のFOMA端末が音声電話とテレビ電話の切り替えが可能な端末であることを通知します。

切替機能通知停止……相手側のFOMA端末に、自分のFOMA端末が音声電話とテレビ電話の切り替えが可能な端末であることを通知しません。

切替機能通知設定確認……「テレビ電話切替通知」の設定状態を確認します。

iモード中にテレビ電話がかかってきたときの応答方法を設定する

〈パケット通信中着信設定〉

お買い上げ時　テレビ電話優先

- テレビ電話はマルチアクセスを使用できないため、iモード通信中やメールの送受信中のテレビ電話の着信に対しては、本機能の設定に従って動作します。→P.318

1 テレビ電話設定画面（P.79）▶「パケット通信中着信設定」▶以下の項目から選択

テレビ電話優先……テレビ電話の着信中画面に移ります。テレビ電話の着信に応答するとiモード通信が切断されます。

次ページにつづく

パケット通信優先……テレビ電話の着信を拒否します。

留守番電話……留守番電話サービスをご契約されている場合、テレビ電話を留守番電話サービスセンターに接続します。「留守番電話サービス」の「開始／停止」にかかわらず留守番電話サービスセンターに接続します。

転送でんわ……転送でんわサービスをご契約されている場合、テレビ電話を転送でんわサービスで設定した転送先へ転送します。「転送でんわサービス」の「開始／停止」にかかわらず転送先に接続します。

おしらせ

- 「テレビ電話優先」に設定していても、音声通話中にｉモード通信を行っているときなど、マルチアクセスを使用している場合はテレビ電話の着信に応答することはできません。
- 「パケット通信優先」、「留守番電話」、「転送でんわ」に設定した場合、テレビ電話の着信は「着信履歴」に「不在着信履歴」として記憶されます。
- 「留守番電話」または「転送でんわ」に設定していても、「留守番電話サービス」または「転送でんわサービス」が未契約の場合、転送先が未設定の場合は、「パケット通信優先」の動作になります。
- 「テレビ電話優先」または「パケット通信優先」に設定していても、「留守番電話サービス」や「転送でんわサービス」の呼出時間を0秒に設定している場合は、「留守番電話サービス」または「転送でんわサービス」が有効になります。

ｉモード通信中にテレビ電話を受ける

あらかじめ「パケット通信中着信設定」を「テレビ電話優先」に設定しておくと、ｉモード通信中やメールの送受信中にテレビ電話を受けることができます。

❶ ｉモード通信中にテレビ電話の着信を受けたら

■ 代替画像で出る場合

▶● [代替画像]

ｉモード通信が切断され、テレビ電話通信中画面に切り替わります。

❷ 通話が終了したら

■ ｉモード通信を継続して利用するには

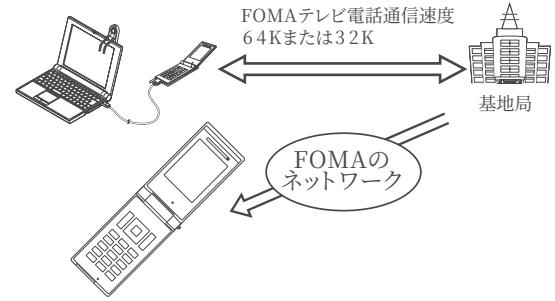
「パケット通信中着信設定」を「テレビ電話優先」に設定している場合でも、テレビ電話着信中画面の機能メニューから「着信拒否」、「転送でんわ」または「留守番電話」を選択することで、ｉモード通信を継続して利用することが可能です。

外部機器と接続してテレビ電話を使用する

パソコンなどの外部機器とFOMA端末をFOMA USB接続ケーブル（別売）で接続することで、外部機器からテレビ電話の発着信操作ができます。
この機能を利用するためには、専用の外部機器、またはパソコンにテレビ電話アプリケーションをインストールし、さらにパソコン側にイヤホンマイクやUSB対応Webカメラなどの機器（市販品）を用意する必要があります。

- USBモード設定を「通信モード」にしてください。なお、外部機器との接続に関する設定は不要です。
- テレビ電話アプリケーションの動作環境や設定・操作方法については、外部機器の取扱説明書などを参照してください。
- 本機能対応アプリケーションとして、「ドコモテレビ電話ソフト 2005」をご利用いただけます。
  ドコモテレビ電話ソフトは、ホームページからダウンロードしてご利用ください。
  （パソコンでのご利用環境などの詳細についてはサポートホームページでご確認ください）

http://videophonesoft.nttdocomo.co.jp/



おしらせ

- 音声通話中は、外部機器からテレビ電話をかけられません。
- キャッチホンをご契約いただいていると、音声通話中に外部機器からのテレビ電話の着信があった場合、現在の通話を終了してから着信に応答することができます。外部機器からテレビ電話中に音声電話・テレビ電話・64Kデータ通信の着信があった場合も同様です。

外出先から室内の様子などを確認する 〈遠隔監視設定〉

お買い上げ時	対局番号登録：未登録　応答時間設定：5秒　設定：OFF

遠隔監視できるのは3G-324Mに準拠したテレビ機能を持つ電話機とFOMA端末間、およびFOMA端末どうしです。FOMA N704iμ は、遠隔監視の発信側としても着信側としても利用できます。

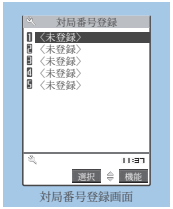
着信側の準備をする

遠隔監視を受ける側（着信側）で、発信側の電話番号（対局番号）や遠隔監視を開始するまでの時間（応答時間）を設定します。

● 対局番号は5件まで登録できます。

❶ テレビ電話設定画面（P.79）▶「遠隔監視設定」▶端末暗証番号を入力▶「対局番号登録」

「対局番号登録画面」が表示されます。



対局番号登録画面

機能メニュー ➡P.83

❷「＜未登録＞」▶対局の電話番号を入力

■ すでに登録されている対局番号を変更する場合

▶変更したい対局番号を選択

❸ CLR で遠隔監視設定画面に戻る

❹「応答時間設定」▶応答時間（003～120秒の3桁）を入力

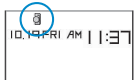
応答時間が設定されます。

❺「設定」▶「ON」

待受画面に「」が表示されます。

■ 遠隔監視を受けない場合

▶「OFF」



❻ FOMA端末を設置

遠隔監視は内側カメラの映像を発信側に送信します。

着信側のFOMA端末は電源を入れて開いた状態にしたまま設置してください。

閉じたまま設置した場合は、音声のみを送信しカメラ画像は送信せず、代替画像に「カメラオフ Camera Off」の文字を重ねて送信します。

おしらせ

- FOMA端末を設置するときは、着信時の振動で動いてしまうことを防ぐため、「バイブレータ」のテレビ電話を「OFF」に設定してください。
- 着信側の「転送でんわサービス」の応答時間が、遠隔監視設定の応答時間より短く設定されていると「転送でんわ」が優先されます。

機能 対局番号登録画面

❶ 対局番号登録画面（P.83）▶α［機能］▶以下の項目から選択

宛先参照入力……電話帳や発信履歴、着信履歴を参照して宛先を入力します。

1件削除・全削除……対局番号を1件または全削除します。全削除すると、「設定」は「OFF」になります。

遠隔監視を行う／終了する

● 遠隔監視を行うには、必ず着信側が対局番号として登録したFOMA端末から電話番号を通知してテレビ電話をかけてください。

次ページにつづく

● FOMA端末を着信側に使用した場合、発信側の映像が表示され、音声も流れます。

❶ 着信側へテレビ電話をかける

着信側で設定した応答時間経過後、遠隔監視がはじまります。
発信側では着信側の映像が表示され、スピーカから音声が流れます。

発信側

■ 着信側で遠隔監視を受けずにテレビ電話（カメラ映像）に出る場合

▶応答時間が経過する前に✉[元画]または📞代替画像で出る場合は●[代画]を押します。

❷ 終了したら📞

通信時間が表示された後、遠隔監視が終了します。
着信側で📞を押しても遠隔監視が終了します。

おしらせ

- ダイヤルロック／おまかせロック設定中でも、遠隔監視による着信は受けられます。
- 電話番号を通知しない場合は、遠隔監視にならずテレビ電話着信となります。
- 遠隔監視設定と以下の機能を同時に設定した場合は、遠隔監視ができなくなります。
  ・公共モード（ドライブモード）　・マナーモード　・指定着信拒否／許可※
  ・登録外着信拒否※
  ※:対局番号以外の電話番号に「指定着信許可」が設定されている場合、対局番号の電話番号に「指定着信拒否」が設定されている場合、対局番号が電話帳未登録時に「登録外着信拒否」が設定されている場合
- 遠隔監視設定と伝言メモ、オート着信を同時に設定した場合、遠隔監視が優先されます。
- 平型スイッチ付イヤホンマイク（別売）を接続している場合は、「通知音出力切替」の設定にかかわらず着信音はイヤホンとスピーカから鳴ります。
- 着信音は遠隔監視専用の着信音となり、変更できません。
- 着信音は「着信音量」の「テレビ電話」で設定した音量で鳴ります（「SILENT」や「LEVEL1」、「STEP」に設定している場合は「LEVEL2」の音量で鳴ります）。
- 遠隔監視の着信中に応答保留にすることはできません。📞を押すと電話は切れます。
- 遠隔監視による着信は、遠隔監視の着信として着信履歴に記憶されます。遠隔監視が実行されなかった場合、テレビ電話の不在着信として着信履歴に記憶されます。
- 遠隔監視中に着信側で音声電話やテレビ電話を受けることはできません。遠隔監視中の音声電話やテレビ電話の着信は不在着信として着信履歴に記憶されます。
- 遠隔監視中にFOMA端末を閉じると、「クローズ動作設定」の設定に従って動作します。ただし、平型スイッチ付イヤホンマイクを接続しているときは「クローズ動作設定」は無効になり、FOMA端末を閉じると相手には代替画像が送信されます。
- 遠隔監視中に着信側でカメラを切り替えることはできません。

カメラ付き携帯電話を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシー等にご配慮ください。お客様がFOMA端末を利用して公衆に著しく迷惑をかける不良行為等を行う場合、法律、条例（迷惑防止条例等）に従い処罰されることがあります。